



GO GLOBAL

東大から世界へ

東京大学 留学・国際交流ガイドブック 2020



THE UNIVERSITY OF TOKYO

世界に飛び立つ君たちへ： Go Global

東京大学理事・副学長 白波瀬 佐和子



グローバルな時代。ここでの「地球規模」という意味を、みなさん、実感することってありますか。東京大学での生活の中で、「グローバルな今」を感じることは、実のところそれほど多くはないのではないでしょうか。日本の外にでてみると、当然のこととしてやってきたことが、実はそれほどやさしいことではなかったり、実は多くの人たちに助けられていたり、といったことが見えてきます。日常使うことばが違って、食べ物や食べ方が違う。生活慣習が違って、さまざまな流儀も違う。そんな環境に身を置いているのが留学です。

五神総長が提唱する「知のプロフェッショナル」(「東京大学ビジョン2020」)とは、東京大学憲章にも謳われる「世界的視野をもった市民的エリート」とも関連して、国際感覚を有し、「他分野や異文化と積極的な対話と協働を進め、その知見を主体的な行動によって社会にフィードバックできる人材」とされています。

東京大学では、「東大から世界へ」というキャッチフレーズのもと、留学を実現するための計画作りや応募方法についての情報や奨学金情報の提供から、全学レベルや学部・研究科レベルで提供されている国際関連プログラムや先輩たちの留学体験の紹介を行っています。一度、Go Global ウェブサイト(<https://www.u-tokyo.ac.jp/adm/go-global/ja/>)を訪問してみてください。

2018年4月から「国際総合力認定制度(Go Global Gateway)」がはじまりました。それは、世界の多様な背景をもつ人々と触れあい、共に生活し、共感することができる力を国際総合力と捉えて、一人でも多くの方が自身の総合力を上げていくことを応援するプログラムです。そこでは、海外に出かけるだけでなく、東京大学で提供されている外国語による授業の履修や、新しい外国語を修学することも、国際総合力の一つとしてカウントされます。同プログラムで大切なポイントは、自らが世界に向かって、自ら行動し、自ら係りを持ち、グローバル感覚を磨いていくことです。いくら素晴らしいチャンスが沢山用意されていても、その存在に気づき、自ら獲得しないと、チャンスはどこかに行ってしまう。さあ、扉を開けて飛び立ってみてください。東京大学は、そんな君たちを応援します。

CONTENTS

はじめに

ー留学・国際交流を成功させるためにー

..... p2-4

I 留学・国際交流プログラムの紹介

..... p5-34

1. 留学・国際交流プログラム

(グローバルキャンパス推進本部担当) p6-19

1) 全学交換留学 p6-11

2) UC派遣プログラム p12-13

3) 全学短期派遣プログラム p14-19

2. 留学・国際交流プログラム

(その他のプログラム) p20-34

1) 国際総合力認定制度(Go Global Gateway)
..... p20

2) GLP-GEFIL東京大学グローバルリーダー育成
プログラム p21

3) 教養学部前期課程 主題科目「国際研修」・
後期課程「後期国際研修」 p22

4) 体験活動プログラム・海外企業体験活動
..... p23-24

① 体験活動プログラム p23

② 東大生海外体験プロジェクト(海外企業体験活動)
..... p24

5) インターンシップ p25-26

① 東京大学グローバル・インターンシップ・プログラム
(UGIP) p25

② Amgen Scholars Program p26

6) 学内でできる国際体験 p27-29

7) 各学部・研究科の取り組み p30-34

① 学部・研究科間交換留学 協定校一覧 p30-32

② 各学部・研究科によるプログラム p33-34

II 留学・国際交流関連情報

..... p35-49

1. 情報収集方法 p36-37

2. 留学にかかる費用と奨学金 p38-41

1) 費用と奨学金例 p38-39

2) 支援者からのメッセージ p40-41

3. 留学における学籍・単位認定 p42-43

4. 語学能力検定試験 p44

5. 安全と危機管理 p45

6. 留学と就職活動 p46

7. 卒業後の大学院留学 p47

8. よくある質問 p48-49

はじめに ー留学・国際交流を成功させるためにー



計画を立てよう

東京大学の中ではもちろん、大学外でも留学・国際交流プログラムを目にする機会がたくさんあると思います。自分がいま、どのようなプログラムに参加したいか、はっきりと決まっていますか？プログラムへ応募する前に、目的やスケジュールをよく考えて計画を立てましょう。

留学経験者の
声を読む



●プログラムに参加する目的は？

プログラムによって、学習内容や活動内容が異なります。「自分の専攻分野に関する知識を深めたい!」「専攻以外の分野を広く学びたい!」「海外で通用する語学力を身につけたい!」など、在学中の限られた期間で何を達成したいのか、自分の目的とプログラムの趣旨を照らし合わせてみましょう。

参考に見よう

留学経験者の声からヒントを得よう

各プログラムのページで内容を確認しよう

国際総合力認定制度 (Go Global Gateway)

p20

●プログラムの実施期間・時期は？

1週間の短期プログラムから、1年間海外の大学で勉強する留学など、期間は様々です。また、夏休みなどの休暇を利用したプログラムや、大学内でお昼休みに開催されるプログラムなどもあります。自分の授業計画やカリキュラムなどと照らし合わせてみましょう。

参考に見よう

全学交換留学募集サイクル

p6

全学短期派遣プログラム年間募集サイクル

p14

学内でできる国際体験

p27

●自分の予算とプログラム費用は？

プログラムには参加費無料のもの、奨学金付きのものなどもあります。プログラムの要項などから費用を確認しましょう。また、外部団体の奨学金に応募することも可能な場合があります。留学などへ申請する前から応募可能な奨学金もあるため、プログラムの募集スケジュールと奨学金の募集スケジュールをよく確認しましょう。

参考に見よう

各プログラムのページで費用を確認しよう

留学にかかる費用と奨学金

p38



情報を集めよう

自分に適した留学・国際交流プログラムを見つけるために、情報収集がとても大切です。以下のようなツームめましょう。また、実際にプログラムに参加した学生の体験談なども貴重な情報源です!

●所属学部・研究科で情報を集めよう

各学部・研究科にて、様々な国際交流プログラムが行われています。各プログラムの情報を単位認定、学籍、授業履修などの相談もして

プログラムを見つけるために、情報収集はツールを活用して、主体的に情報を集めましょう。また、実際にプログラムに参加した学生の体験談なども貴重な情報源です!

参考に見よう

各学部・研究科の取り組み

p30

留学における学籍・単位認定

p42

●タイムリーに情報を集めよう

どの学部・研究科の学生でも応募することンパス推進本部が担当するプログラムのは、「Go Global ウェブサイト」で発信してが届くSNSも活用して、最新情報を集める

ができるグローバルキャリア情報やイベント情報などいます。タイムリーに情報ようにしましょう。

<https://www.u-tokyo.ac.jp/adm/go-global/ja/>

Go Global
ウェブサイト
に
アクセス



参考に見よう

情報収集方法

p36

●直接話して相談しよう

春の留学フェア、秋の留学説明会などのプログラムの詳細な情報を得られるだけでなく、イベントに参加してみましょう。様々なプログラム留学を経験した学生に直接相談できるチャンスです。

イベントに参加してみましょう。様々なプログラム留学を経験した学生に直接相談できるチャンスです。



2019年春の留学フェアの様子



応募条件をクリアしよう

応募したいプログラムが決まったら、プログラム募集要項などで応募資格・条件を確認しましょう。多くのプログラムで、応募する時点で語学能力などの条件を満たしている必要があります。計画的に応募資格・条件をクリアしましょう。

●応募資格・条件の例

語学能力

プログラムが定める語学試験を受け、応募する時点で基準に達している必要があります。試験によっては年に数回しか受験できないもの、結果・スコアが出るまでに時間がかかるものもあるため、計画的に受験しましょう。

学業成績

留学プログラムや奨学金の選考では学業成績が考慮される場合がほとんどです。ただし、志望動機・学習計画・面接・語学力等も含めて総合的に選考されるので、積極的にチャレンジしてください!

東京大学への在籍

東京大学が企画するプログラムや東京大学を通じて応募するプログラムの多くで、プログラム期間中を通して東京大学に在学していること、プログラム期間中に卒業・修了しないことを条件としている場合があります。事前に募集要項をよく確認しましょう。

その他

プログラムによって、年齢、学年、専門分野、今までに履修した授業など、細かい条件が定められている場合があります。

参考に見よう

各プログラムのページで条件を確認しよう

語学能力検定試験

p44

どんなプログラムに参加する?

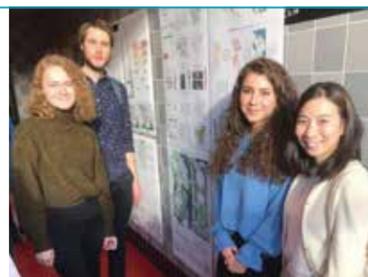
東京大学でできる留学・国際交流プログラムの紹介

東京大学には、数多くの留学・国際交流プログラムがあります。「多すぎてどのプログラムに参加すればいいかわからない……」という方のために、ここではプログラムを目的別に紹介します。対象学生はプログラム・コースごとに異なることがありますので、必ず各プログラムのページなどで確認してください。

★学部前期課程学生対象 ★学部後期課程学生対象 ★大学院学生対象

長期間海外で生活し、現地の大学でしっかり学びたい

- ★★★交換留学 →p6, 30
- ★★★UC派遣 →p12



海外経験もないし語学も苦手…それでもチャレンジしたい

- ★★★全学短期派遣プログラム →p14
- ★★★主題科目「国際研修」 →p22
- ★★★体験活動プログラム →p23



将来グローバルに活躍したい

- ★★★国際総合力認定制度 (Go Global Gateway) →p20
- ★★★GLP-GEfIL東京大学グローバルリーダー育成プログラム →p21



東京大学のキャンパス内で国際交流・「留学」がしたい

- ★★★国際化教育支援室・グローバルゼンションオフィスの活動 →p27, 28
- ★★★International Lounge →p28
- ★★★スペシャル・イングリッシュ・レッスン (SEL) →p29
- ★★★UTokyo Global Summer Program 開講コース →p29



他にもプログラムはたくさんあります。さあ、踏み出そう!

I

留学・国際交流プログラムの紹介 p5-34

1. 留学・国際交流プログラム(グローバルキャンパス推進本部担当) …… p6-19
 - 1) 全学交換留学 …… p6-11
 - 2) UC派遣プログラム …… p12-13
 - 3) 全学短期派遣プログラム …… p14-19
2. 留学・国際交流プログラム(その他のプログラム) …… p20-34
 - 1) 国際総合力認定制度 (Go Global Gateway) …… p20
 - 2) GLP-GEfIL東京大学グローバルリーダー育成プログラム …… p21
 - 3) 教養学部前期課程 主題科目「国際研修」・後期課程「後期国際研修」 …… p22
 - 4) 体験活動プログラム・海外企業体験活動 …… p23-24
 - ①体験活動プログラム …… p23
 - ②東大生海外体験プロジェクト(海外企業体験活動) …… p24
 - 5) インターンシップ …… p25-26
 - ①東京大学グローバル・インターンシップ・プログラム (UGIP) …… p25
 - ②Amgen Scholars Program …… p26
 - 6) 学内でできる国際体験 …… p27-29
 - 7) 各学部・研究科の取り組み …… p30-34
 - ①学部・研究科間交換留学 協定校一覧 …… p30-32
 - ②各学部・研究科によるプログラム …… p33-34

1. 留学・国際交流プログラム (グローバルキャンパス推進本部担当)

1) 全学交換留学

概要

東京大学と東京大学の協定校(※1)が1学期～1年間学生を交換する留学プログラムを交換留学と呼びます。東京大学が授業料を徴収せずに協定校の学生を受け入れる代わりに、東京大学の学生は東京大学に授業料を納めれば、留学先での授業料を支払わずに協定校で授業を履修したり、研究指導を受けたりすることができます。これを大学全体で実施するものが「全学交換留学」であり、各学部・研究科が独自に行うものを「学部・研究科間交換留学」(p30-32参照)と呼びます。全学交換留学へはどの学部・研究科の学生でも応募することが可能です。

※1 東京大学が学生交流覚書を締結している海外大学のこと。

全学交換留学の詳細はこちら



<https://www.u-tokyo.ac.jp/adm/go-global/ja/program-list-USTEP.html>

留学時期と募集スケジュール

1学期間あるいは1年間が一般的な留学期間です。実際の詳細な留学期間は留学先の協定校の学事暦(Academic Calendar)(※2)に基づきます。1年間の留学を希望する場合は、原則として秋学期からの1年間となりますが、春学期が学事暦の1学期目となる大学については、春学期開始の1年間の留学が可能です。

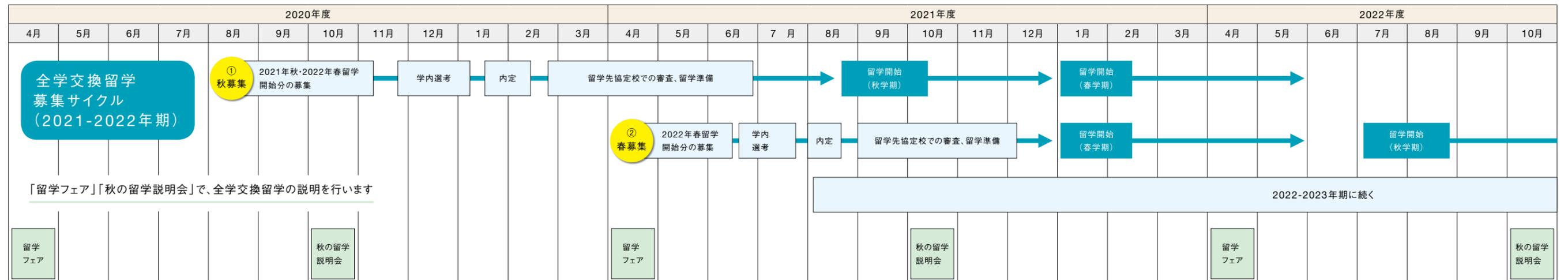
学内募集は年に2回行います。

①秋募集(7～11月頃): 翌年の秋学期留学開始分・翌々年の春学期留学開始分を募集

②春募集(秋募集の翌年の4～6月頃): 翌年の春学期留学開始分を募集(※3)

※2 海外の大学は一般的に1学期目:秋学期(8～10月開始、12～1月終了)、2学期目:春学期(1～2月開始、4～5月終了)の2学期制が多いです。また、2021年の秋学期(1学期目)～2022年の春学期(2学期目)という海外大学の1学年(Academic Year)を学内募集では2021-2022年度(Academic Year)と呼んでいます。

※3 前年度の秋募集で余った派遣枠及び春募集までに加わった新規協定校の派遣枠を募集します。



※本ページの情報は2020年4月1日現在の情報です。変更される場合がありますので、詳細は最新の募集要項を確認してください。また、本ページの情報は全学交換留学のものであり、学部・研究科間交換留学については、学部・研究科ごとに異なります。

《メリット》

- ①評価の高い協定校への留学
東京大学の協定校は世界的に評価の高い教育機関です。事前に多くの情報が得られ、現地でのサポート体制も充実しています。
- ②留学先の協定校では授業料の支払いが不要
留学先の授業料が不要になる代わりに、東京大学の授業料は納める必要があります(※4)。
- ③協定校では交換留学生として優遇
宿舍を優先的に確保してもらえたり、留学生用カウンセリングを受けられたりなど、特段の配慮をしてもらえるケースがあります。
- ④留学で取得した単位を互換
協定校で取得した単位が東京大学の単位として認定される可能性があります(※5)。
- ⑤プログラム付属の奨学金に申請可能(返済不要)
支給額は年度や地域によって異なりますが、月5～10万円ほど支給されます。また、東京大学や民間財団などが募集する他の奨学金への応募も可能です(p38-39参照)。

《主な資格・条件(一例)》

- 留学期間を通じて東京大学の正規課程に在学する者。留学期間内に東京大学を卒業・修了する者、東京大学の学部から大学院に進学する者は対象外です。
- 協定校が定める交換留学生の資格・条件を満たす者(語学能力、所属学部・研究科、学年等)。

《選考方法》

- ①学内審査(書面・面接審査)
書面・面接審査により学内選考を行います。審査では、学業成績・語学能力・申請書の記述内容や面接等が総合的に考慮されます。
- ②協定校での審査(書面審査)
学内選考を通過した学生は、協定校が定める申請書類を作成します。東京大学が留学先の協定校へ学生を推薦し、協定校で審査が行われます。協定校での審査を通過すると、留学決定です!

※4 留学期間中の身分は「休学」ではなく「留学」となり、東京大学の授業料を納める必要があります。大学院学生の場合、その活動の実態により「留学」又は「研究指導の委託」の手続きを取ることになります。

※5 認定の基準は所属する学部・研究科により異なり、履修した科目によっては認定されない場合もあります。留学時の学部・研究科の担当窓口事前に相談しましょう(p43参照)。

全学交換留学等経験者のインタビューはこちら



<https://www.u-tokyo.ac.jp/adm/go-global/ja/career-why.html>

全学交換留学協定校一覧

国・地域	協定校	対象	2019-2020 派遣実績 (人)
台湾	国立交通大学	学部/院	0
台湾	国立台湾大学	学部/院	2
中国	上海交通大学	学部/院 (M)	0
中国	清華大学	学部/院	4
中国	浙江大学	学部/院	1
中国	南開大学	学部/院	0
中国	南京大學	学部	0
中国	復旦大学	学部	1
中国	北京大學	学部/院	3
香港	香港大学	学部/院	4
香港	香港科技大学	学部	0
インドネシア	インドネシア大学	学部	1
インドネシア	ガジャマダ大学	学部/院 (M)	1
韓国	高麗大学校	学部/院 (M)	0
韓国	ソウル大学校	学部/院	0
韓国	浦項工科大学校	学部/院	0
韓国	延世大学校	学部/院 (M)	0
マレーシア	マラヤ大学	学部/院 (M)	1
フィリピン	フィリピン大学	学部/院 (M)	0
シンガポール	シンガポール国立大学	学部	6
シンガポール	ナンヤン工科大学	学部/院	2
タイ	チュラロンコン大学	学部/院	0
ブラジル	サンパウロ大学	学部/院	0
チリ	チリ大学	学部/院 (M)	0
チリ	チリ・カトリック大学	学部/院 (M)	0
メキシコ	エル・コレヒオ・デ・メヒコ	学部/院	0
メキシコ	メキシコ国立自治大学	学部/院	1
トルコ	ボアジチ (ボスフォラス) 大学	学部/院	-
カナダ	トロント大学	学部/院	7
カナダ	ビクトリア大学	学部	1
カナダ	ブリティッシュ・コロンビア大学	学部/院	8
カナダ	マギル大学	学部	3
アメリカ	イェール大学	院	1
アメリカ	イリノイ大学アーバナ・シャンペーン校	学部	3
アメリカ	カリフォルニア大学サンタクルーズ校	学部/院	-
アメリカ	ジョンズ・ホプキンス大学	学部	2
アメリカ	スワースモアカレッジ	学部	2
アメリカ	ノースイースタン大学	学部	2
アメリカ	プリンストン大学 (学部)	学部	2
アメリカ	プリンストン大学 (大学院)	院	0
アメリカ	ワシントン大学	学部/院 (M)	4
オーストラリア	アデレード大学	学部/院 (M)	0
オーストラリア	オーストラリア国立大学	学部	4
オーストラリア	クィーンズランド大学	学部/院 (M)	2
オーストラリア	シドニー大学	学部/院	1
オーストラリア	ニューサウスウェールズ大学	学部/院	0

※院 (M) は修士のみ

国・地域	協定校	対象	2019-2020 派遣実績 (人)
オーストラリア	メルボルン大学	学部/院	4
オーストラリア	モナシュ大学	学部/院 (M)	1
ニュージーランド	オークランド大学	学部/院 (M)	1
ニュージーランド	オタゴ大学	学部/院 (M)	0
デンマーク	コペンハーゲン大学	学部/院 (M)	4
フィンランド	ヘルシンキ大学	学部/院 (M)	3
フランス	エコール・ポリテクニーク	学部/院 (M)	0
フランス	グルノーブル・アルプ大学	学部/院 (M)	1
フランス	EHESS (社会科学高等研究院)	院	3
フランス	ストラスブール大学	学部/院	1
フランス	パリ政治学院	学部/院 (M)	3
ドイツ	ケルン大学	学部/院	0
ドイツ	ベルリン自由大学	学部/院	0
ドイツ	ミュンヘン・ルートヴィヒ・マクスミリアン大学	学部/院	3
アイルランド	トリニティカレッジ・ダブリン	学部/院	1
アイルランド	ユニバーシティ・カレッジ・ダブリン	学部/院	0
イタリア	ローマ大学ラ・サピエンツァ	学部/院	1
オランダ	フローニンゲン大学	学部/院 (M)	1
オランダ	ライデン大学	学部/院 (M)	3
ロシア	サンクトペテルブルク大学	学部/院	3
スペイン	マドリード自治大学	学部/院	2
スウェーデン	ウプサラ大学	学部/院	3
スウェーデン	スウェーデン王立工科大学	学部/院	2
スウェーデン	ストックホルム大学	学部/院	4
スウェーデン	ルンド大学	学部/院 (M)	2
スイス	ジュネーヴ大学	学部/院	6
スイス	スイス連邦工科大学チューリッヒ	学部/院	9
英国	ウォリック大学	学部	1
英国	エクセター大学	学部	1
英国	グラスゴー大学	学部/院 (M)	2
英国	サウサンプトン大学	学部	1
英国	シェフィールド大学	学部	1
英国	ダラム大学	学部	4
英国	マンチェスター大学	学部	-
英国	ユニバーシティ・カレッジ・ロンドン	学部/院 (M)	2
英国	ロンドン大学東洋アフリカ学院	学部/院 (M)	1
英国	ロンドン・スクール・オブ・エコノミクス・アンド・ポリティカル・サイエンス	学部	0

※2020年2月1日現在、交換留学を実施するため、東京大学が学生交流覚書を締結している協定校を掲載しています。覚書の更新や取扱いの検討等により調整中につき掲載されていない協定校があること、掲載されていても当該年度に交換留学を実施しない場合もあることに注意してください。※ボアジチ (ボスフォラス) 大学、カリフォルニア大学サンタクルーズ校、マンチェスター大学は2020-2021以降に募集を始めました。※過去の詳細な派遣実績等はGo Global ウェブサイト (<https://www.u-tokyo.ac.jp/adm-go-global/ja/program-list-USTEP.html>) に掲載しています。

派遣実績はこちら



全学交換留学 体験記



氏名：佐久間 夏美さん
所属・学年 (留学開始時)：工学部4年
留学先大学：スウェーデン王立工科大学 (KTH)
留学期間：2018年8月～2019年6月 (10ヶ月間)

スウェーデン人は気候の話題が好きです。寒くなると急いで湖で水浴び納めをしたり、春先は日の伸び方について話したり。初めて会う相手にはまず天気の話をするという良いと語学講座で学びました。

自分のやりたいことに集中できた1年

①留学を決めたきっかけ

体験活動プログラムでKTHに行くプログラムに参加した時、学生が主体的に取り組む授業や留学生の多さに魅力を感じました。帰国後授業を調べてみると自分の興味のある分野の授業が豊富で、留学したいと思いました。

②留学先での勉強内容

イノベーションシステムやエネルギー政策といった社会学要素のあるものから、工学要素の強い計算ソフトを用いた環境負荷の計算、学際的分野である環境アセスメントなど勉強しました。2ヶ月ごとに、それまでの授業の中で気づいた自分の興味に合わせてサステナビリティの分野の中で自由に授業を選んでいました。

③留学先を勧める点

KTHに関しては留学生が多く国際的な環境で学べ、課題の班のメンバーのみならず先生やTAとも距離が近く学習のサポートが充実していることが良かったです。キャンパスの赤レンガと雪景色は一生忘れません。ストックホルムは歴史的文化も若者文化もスポーツの機会も豊かで見どころもイベントも多く、人も優しいです。

留学中良かったと思うことの一つに自分のやりたいことを第一に考えられたことがあります。国際色豊かだった留学先ではそれぞれがそれぞれの意志を軸にそれぞれのペースで学びに来ていました。そんな周りの環境と、自分自身卒業を延ばして取るべき授業内容に制限がなかった状況のため、自分の興味の赴くままに勉強出来ました。いつも何かに気を取られ自分の興味が後回しになっていた留学前と比べて、スウェーデンというある意味自分の元の世界から隔離され、失敗を恐れる必要性も無い環境で自分と向き合えたことは良かったと思います。

	費用と奨学金
・家賃/寮費 (光熱費含む)	6.6万円/月
・食費	3.5万円/月
・渡航費	17万円
・娯楽費 (旅行等含む)	25万円
・その他 (教科書代・保険代等)	15万円
・プログラム付属の奨学金	8万円/月

全学交換留学 体験記



氏名：嶋村 綾さん
所属・学年 (留学開始時)：教養学部文科三類2年
留学先大学：ガジャマダ大学
留学期間：2018年8月～2019年6月 (11ヶ月間)

ムスリムの多いインドネシアでは、キリスト教徒やバリ出身のヒンドゥー教徒もいるものの、ラマダーン (断食月) の日は大学の食堂も閉まってしまい、食糧確保に苦労しました。

一生ものの経験ができたインドネシア留学

①留学を決めたきっかけ

インドネシアに興味を持ったきっかけは、高校時代にインドネシア人と交流し、彼らの温かさや親しみやすさに惹かれたことです。しかしインドネシアの何に興味があるかわからず、その答えを見つけるため留学しました。

②留学先での勉強内容

開発学やASEANの安全保障などの政治的な内容に加え、宗教や国民教育などインドネシアの社会文化に関する授業も履修しました。その他、紛争解決や国際機関など国際関係学の授業に参加しました。また、語学学校に通ってインドネシア語を勉強し、1年で初心者からインドネシア語検定C級を取得するまでになりました。

③留学先を勧める点

人口の9割がムスリムの途上国という日本とは全く異なる環境に身を置くことで、文化的違いや途上国で暮らす困難が身に染みて感じられます。環境が整備され留学プログラムも多数存在する欧米には今後いくらでも留学する機会があります。学部時代に東南アジアへ留学することは、人生を通して唯一無二の経験となるはずです。

1年の留学は短期留学プログラムと違い、日々のスケジュールが細かく組まれているわけではありません。全て自分で何か行動しないと1日の予定が授業だけとなってしまい、暇を持て余すことになりま。生活や言語に慣れてきた3ヶ月辺りで私はようやくそのことに気づき、後期は日本留学紹介イベントでのゲストスピーカー、日本語塾でのアシスタント、茶道体験会開催など、積極的に行動するようになりました。また、現地の友達の家や自然豊かな田舎へ遊びに行くことで、留学ならではの現地の生活を体験することができました。留学生活はいくらでも自分で変えられます。ぜひ限られた時間を有効に使い、かけがえのない留学にしてください。

	費用と奨学金
・家賃/寮費 (光熱費含む)	2.5万円/月
・食費	2.5万円/月
・渡航費	15万円
・娯楽費 (旅行等含む)	10万円
・その他 (教科書代・保険代等)	10万円
・プログラム付属の奨学金	7万円/月



氏名：樋川 直人さん
 所属・学年(留学開始時)：薬学部3年
 留学先大学：エコール・ポリテクニク
 留学期間：2018年9月～2019年8月(11ヶ月間)

黄色いベスト運動、予定通りに来ないバスや電車、待っても届かない保険証と滞在許可証。日本では考えられないようなアクシデントに遭ったとき、共有できる仲間や助けしてくれる人は心強い存在でした。

主体性の学び、真の留学の意義

①留学を決めたきっかけ

教養学部時代ではフランス語を履修したのでフランス語圏の留学を決めました。留学先で研究インターンシップに携わることで、海外で修士あるいは博士課程に進んだ自分を思い描けるか確かめたいと考えました。

②留学先での勉強内容

9月から3月中旬まではM1の化学(有機化学、逆合成、量子化学など)を学び、並行して学部内の研究室でニッケル触媒を用いたカップリング反応に関する短期的なインターンシップを行いました。3月下旬から7月下旬までは受け入れ先学校での研究室(PMC)でナノ粒子について、フルタイムで研究インターンシップを行いました。

③留学先を勧める点

いわゆる交換留学生用の授業ではなく、修士課程・現地のエンジニア生(polytechniciens)用の、レベルの高い授業を受講できる点。理系の授業は英語のものも多くあり、フランス語力に関係なく受講できる点。海外からの生徒が多く、diversityがある点。安く美味しいワインが飲める点。

この留学は、出願を決意してから帰国までを含め、人生で最も主体性が試された経験でした。達成したい目的を具体化して実現に向かい精進することは、慣れない文化・言語の環境では特に困難を極めます。というのも、海外生活は日常生活が「日本ではできない体験」であるので、あえて辛い思いをせずとも「貴重な体験」ができるからです。自ら選んだ茨の道は険しい道程でしたが、その厳しい旅中で自分が将来携わりたい研究分野を明確化することができ、交友関係やコミュニケーションの大切さについて身を以て知ることができました。私にとってこの留学は真に「日本ではできない体験」であったと自信を持って言えます。

・家賃/寮費(光熱費含む)	8.1万円/月	費用と奨学金
・食費	3万円/月	
・渡航費	20万円	
・娯楽費(旅行等含む)	10万円	
・その他(教科書代・保険代等)	20万円	
・プログラム付属の奨学金	8万円/月	



氏名：福田 茉央さん
 所属・学年(留学開始時)：教育学部3年
 留学先大学：オークランド大学
 留学期間：2018年7月～2019年7月(12ヶ月間)

日本での1年間には良い日も悪い日もありますが、海外での1年間でも同じです。自分の思い通りにならない時、「そんな日もあるさ!」と次に進める力が、留学生生活を豊かにすると思います。

人口500万人でも多様性溢れるニュージーランドで学ぶ1年間

①留学を決めたきっかけ

高校生の時から英語が好きで、留学への憧れがありました。前期課程の授業で2週間オーストラリアの大学で学んだことで、より長く海外の大学で勉強したいと思うようになり、単位の互換もできる交換留学を決めました。

②留学先での勉強内容

自分の専攻の教育学・心理学を中心に勉強しました。先住民マオリの文化を重んじる教育制度といった正の面と、DVや若者の自殺率の高さといった負の面の両方に触れ、留学前は知らなかった話題についても理解を深めました。授業はレクチャーとディスカッションに分かれていて、クラスメートと議論する機会も沢山ありました。

③留学先を勧める点

日本に比べて小規模な国ですが、世界初の女性参政権付与、手話公用語化など、世界をリードする一面もある面白い国です。大学は留学生への支援が手厚く、特に英会話ワークショップは語学力の向上や友達作りに役立ちます。また、映画の舞台にもなった豊かな自然が広がっていて、長期休暇中の旅行先には事欠きません。

留学前は、日本人に囲まれていた今までの生活から離れて「マイノリティ」になることを想像していました。しかしいざ到着してみると、様々な人々・言語が行き交っていて、逆に孤独を感じることはありませんでした。オークランドでは1年を通して、中国の元宵節、インドのディーワリー、マオリのマタリキなど様々な文化のお祝いがされます。それらに参加するだけでなく、友達と成人式を企画したり、NZ最大の日本のイベント「Japan Day」にてボランティアをしたりと、日本文化を発信する機会もありました。様々なバックグラウンドを持つ人々と関わりながら、自分自身を見つめ直すことができる、とても贅沢な時間でした。

・家賃/寮費(光熱費含む)	10万円/月	費用と奨学金
・食費	3万円/月	
・渡航費	16万円	
・娯楽費(旅行等含む)	10万円	
・その他(教科書代・保険代等)	15万円	
・プログラム付属の奨学金	7万円/月	



氏名：古瀬 裕太さん
 所属・学年(留学開始時)：教養学部4年
 留学先大学：メルボルン大学
 留学期間：2018年7月～2019年6月(12ヶ月間)

メルボルン市内には無料のトラムが走っているので移動には困りません。週末は言語交換の集まりに参加したり、サッカーなどの試合観戦や芸術鑑賞をしたりと、シティライフを満喫しました!

日本人の私が「移民」になってみるという経験

①留学を決めたきっかけ

学部3年の夏に参加した東大のサマープログラムがきっかけです。この語学研修を初めの一步にして、次はもっと専門的な内容を学びたい、より長期の海外生活に挑戦したいという気持ちが強まりました。

②留学先での勉強内容

オーストラリアの多文化主義や移民政策に興味を持ち、政治学や社会学の授業を主に履修しました。特に印象に残っているのは、オーストラリア先住民についての授業です。レイシズムや植民地主義が決して過去のものではないということを知り、自分自身の意見を述べることの重要性も痛感しました。

③留学先を勧める点

メルボルン大学には世界中から多くの留学生が集まっており、様々な国や地域の学生と友達になることができます。また、メルボルンは世界でも有数の住みやすい都市として知られており、快適な生活環境が整っています。多民族・多文化都市ということもあって、自由でオープンな気風に満ちていたように思います。

学部4年というタイミングで1年間の留学を決意した私の選択に間違いはなかったと今は確信しています。「多文化共生」のあり方について日本社会は真剣に向き合う必要があると思います、まずは日本人の私が「移民」になってみようという思いで留学を決めました。短期間ではあれどオーストラリア社会でマイノリティとして過ごした経験は、自分の弱さと向き合い人とのつながりの大切さを噛みしめる機会を私に与えてくれました。また結果的に、留学先の経験を就活に活かしたり、オーストラリアの多文化主義に対する問題意識を卒論に結実させたりすることができました。遅すぎることはきっとないはず。留学したいという気持ちをぜひ大切にしてください。

・家賃/寮費(光熱費含む)	12万円/月	費用と奨学金
・食費	4万円/月	
・渡航費	15万円	
・娯楽費(旅行等含む)	30万円	
・その他(教科書代・保険代等)	10万円	
・プログラム付属の奨学金	7万円/月	



氏名：諸星 渚さん
 所属・学年(留学開始時)：法学部3年
 留学先大学：ライデン大学
 留学期間：2018年8月～2019年2月(6ヶ月間)

ドイツ、ベルギー、フランスなどの近隣諸国には電車で行くこともでき、アクセスがよいです。同じヨーロッパでも空気感・宗派・食など文化が異なり、違いを味わうことができました。

価値観の違いを肌で感じる

①留学を決めたきっかけ

私は法学部に所属していましたが、法学以外の分野についても学ぶ時間が欲しいと感じていました。学びに向けて解放された大学生のうちに、自身の関心ある分野の一つに絞らず幅広く学びたいと思い、留学を決めました。

②留学先での勉強内容

留学先では、自身が関心のあった芸術文化や文化政策についての授業を受けました。例えば文化政策については、日本と異なる政策の実態を学び、比較検討をしました。海外の様子を知ることによって日本の実情に気づきを得られた点良かったです。

③留学先を勧める点

オランダの公用語はオランダ語ですが、授業での使用言語は英語でした。相手の英語力は高いですが、お互いに第二言語だからこそ失敗を恐れない環境で過ごすことができました。治安も良いので、快適に過ごすことができる点がお勧めです。

留学に行くと、コミュニケーションなどを通じて想定していなかった日本との違いを感じられます。大学の授業内容や文化芸術はもちろん異なりますが、教育制度や交通インフラ・政治に対する価値観など日本では当たり前だと思っていたものが実はそうではなかったことに気づかされました。「当たりのもの」はなく、ただ多様な考え方がある中で、自分は今後どこで何を学び何をしたいのか、その指針を得られたことは良い収穫になりました。「学部生」の段階で日本を離れ、時間をかけて留学することは私にとって大きな選択でしたが、今では自身の進路を考える上で不可欠な時間だったと感じています。

・家賃/寮費(光熱費含む)	8万円/月	費用と奨学金
・食費	3万円/月	
・渡航費	19万円	
・娯楽費(旅行等含む)	10万円	
・その他(教科書代・保険代等)	1.5万円	
・プログラム付属の奨学金	8万円/月	

2) UC派遣プログラム

(カリフォルニア大学バークレー校・デービス校派遣プログラム)

概要

米国カリフォルニア大学(UC)2校との協力により、東京大学の学生を1学期～1年間派遣する留学プログラムです。バークレー校のAmerican and International Study Program(AISP)ではアメリカ政治と国際関係を勉強します。デービス校のGlobal Study Program(GSP)ではデービス校で開講されているほぼ全ての授業から履修することができ、また、語学コースも実施されています。

《メリット》

交換留学以外の方法で長期の留学が可能です。基本的に授業料等の費用は全て自己負担となりますが、東京大学や民間財団などの留学用の奨学金に応募することもできます。

《募集・選考スケジュール》

例年3～4月上旬頃に募集を行います。学内選考を通過した学生は、カリフォルニア大学各校へ直接申請を行います。

プログラム詳細

プログラム名	留学時期	費用(授業料)	募集人数	語学条件※
カリフォルニア大学 バークレー校 AISP	Fall:8～12月 Spring:1～5月	約24,000ドル / Semester(宿泊費込み)	5名程度	TOEFL iBT 90 IELTS 7.0 (Academic Module)
カリフォルニア大学 デービス校 GSP	Fall:9～12月 Winter:1～3月 Spring:3～6月	7,495ドル / Quarter(宿泊費別)	20名	TOEFL iBT 61-80 IELTS 6.0-7.0 (Academic Module)

※TOEFL iBT/IELTSのほか、UCバークレー校ではCambridge Proficiency Exam, Cambridge Certificate of Advanced Englishを、UCデービス校ではTOEFL PBTを受け付けています。また、UCデービス校では保有するスコアによって、取れるコースが異なります。詳細は募集要項を確認してください。

※本ページの情報は2020年4月1日現在の情報です。変更される場合がありますので、詳細は最新の募集要項を確認してください。

詳細はこちら



<https://www.u-tokyo.ac.jp/adm/go-global/ja/application-tips-UC.html>



UC派遣 体験記



氏名：太谷 慧さん
所属・学年(留学開始時)：法学部3年
留学先大学：カリフォルニア大学バークレー校
留学期間：2018年8月～2019年5月(10ヶ月間)

友人を訪ねて革新的なカリフォルニアでは保守的な内陸部に赴き、そこら中で「Make America Great Again」の看板を見たり熱狂的なトランプ支持者の話を聞いたりし、アメリカの分断を実感した休暇が印象深いです。

コンフォートゾーンを飛び出し、成長する

①留学を決めたきっかけ

海外経験がなかったものの、国際的な仕事を志望していたため、学生の中に一度コンフォートゾーンを飛び出し、政治学の学習や英語力の向上、視野の拡大等を通して、タフでグローバルな人間に成長したかったからです。

②留学先での勉強内容

まずアメリカにおける政治学の三大分野であるアメリカ政治、比較政治、国際関係の基本について学習しました。また個人的にアジアに興味があったため、北東アジア政治、東南アジア政治、アメリカの東アジアに対する外交政策について学習し、日本のそれらとは異なる、アメリカのアジア観や中国観を理解することができました。

③留学先を勧める点

UC Berkeleyは全米で最もリベラルな街にあるランキング1位の公立大学であり、自由闊達な雰囲気の中でトップレベルの授業を履修することができます。また寮(International House)が、寝食のための場所としてだけでなく、友達作りや国際交流のためのコミュニティとして本当にオススメです。

留学の目的は「コンフォートゾーンを飛び出し、成長する」ことであり、専門や英語の勉強はその手段です。すなわち、それらを通して既存の方法の限界に直面し、新規の方法を試行して失敗し、また新規の方法を試行して成功する、という過程を繰り返すことで成長します。その意味において、留学の意義は、コンフォートゾーン内の全ての環境より既存の方法の限界に直面する可能性が大きい、その外のチャレンジングな環境の中で一定期間生活できることです。尤も以上は実際に留学しなければなかなか分かりません。しかしだからこそ「専門の勉強なら東大でもできる」「英語の勉強なら日本でもできる」と思い込まず、留学してください。応援しています。

項目	金額	費用と奨学金
・家賃/寮費	20万円/月	
・食費	(寮費に含まれる)	
・渡航費	25万円	
・娯楽費	50万円	
・その他(教科書代・保険代等)	20万円	
・奨学財団からの奨学金	40万円/月	

※このほか、左ページに記載のある授業料等がかかります。

UC派遣 体験記



氏名：飯塚 理子さん
所属・学年(留学開始時)：総合文化研究科修士1年
留学先大学：カリフォルニア大学デービス校
留学期間：2019年1～3月(3ヶ月間)

デービスには留学生寮がありません。私は学生向けシェアハウスの部屋をサブリースすることができ、現地の学生に混じって生活することができました。留学の基礎となる場所なので部屋選びは大切です!

外国人として暮らす

①留学を決めたきっかけ

卒業する前に留学を経験してみたいとかねてから考えていたため。また、この留学プログラムは授業期間でない期間だったので、研究に支障をきたすことなく留学することができると考え、留学を決めました。

②留学先での勉強内容

専門の認知心理学の授業を主に受講しました。1学期が3ヶ月と短く、頻りに中間試験や発表がありました。最も印象的だったのは授業の進み方です。質問が多いのはもちろん、少人数で行われるディスカッションのクラスがあったり、試験の前には任意参加の補講クラスがあったりと、学習環境として理想的であると感じました。

③留学先を勧める点

Davisは大学の町であり、安心して暮らすことができます。治安がよく、見かけるのは大学関係者ばかりでした。大学には24時間開いている学習室、無料のジム、コンサートホール、広い芝生などがあり施設として充実しています。東大にはない専攻科目があり、音楽、美術、ワイン学などの授業を受講することも可能です。

留学中は毎日が刺激的でした。オープンの表示が華氏であることに気づかずに生焼けのマフィンを作ってしまった、机の裏にガムがついていない席を探すことが不可能であったり、些細なことが楽しかったです。将来に対する不安などから解放されて、のびのびと過ごすことができました。長く滞在すれば大変なこともあったかもしれませんが、お試して外国人として暮らすにはとても良い機会だったと思います。現地の学生たちが真面目に勉強しているので、感化されて勉強に没頭しているとあっという間に3ヶ月が経ってしまいました。そんな中で留学生たちとパーティーしたり、現地の友達と小旅行に行ったのは良い思い出です。

項目	金額	費用と奨学金
・家賃/寮費(光熱費含む)	4.5万円/月	
・食費	1万円/月	
・渡航費	25万円	
・娯楽費(旅行等含む)	5万円	
・その他(教科書代・保険代等)	2万円	
・プログラム付属の奨学金	8万円/月	

※このほか、左ページに記載のある授業料等がかかります。

3) 全学短期派遣プログラム (サマー・ウインタープログラムなど)

Motivation for your Future

「自分の語学力を把握できた」「積極的なディスカッションの面白さを知った」「大切な友人が世界にできた」など、短期間の留学でも長期的な収穫を得ることができます。

全学短期派遣プログラムのメリット

- ☑ 期間が短いので費用を抑えられる
- ☑ 様々な内容・行先のプログラムがある
- ☑ より長期・専門的な留学の準備になる

全学短期派遣プログラムの種類

ここでは、全学短期派遣プログラム(グローバルキャンパス推進本部が実施する、全ての学部・研究科の学生が参加できる可能性がある短期留学プログラム)の種類を説明します。各プログラムへは、東京大学を通じて応募する必要があります。

グローバルキャンパス推進本部担当サマープログラム

夏季休業期間中に実施されるプログラムです。東京大学が海外の協定校と連携して、東京大学の学生のために企画運営する、または協定校の既存のプログラムをカスタマイズして実施するプログラムです。内容はプログラムにより講義(語学または特定テーマ)、フィールドワーク、現地学生との交流、文化体験など様々です。

2020年度開催予定プログラム

- ソウル大学校・東京大学合同サマープログラム
- シェフィールド大学サマープログラム
- ウォリック大学サマープログラム
- スtockホルム大学サマープログラム
- チュロンコン大学サマープログラム
- キーンズランド大学サマープログラム
- 上海交通大学サマープログラム

グローバルキャンパス推進本部担当ウインタープログラム

春季休業期間中に実施されるプログラムです。サマープログラムと同様に、東京大学が海外の協定校と連携して、東京大学の学生のために企画運営、または協定校の既存のプログラムをカスタマイズして実施されます。内容はプログラムにより講義(語学または特定テーマ)、フィールドワーク、現地学生との交流、文化体験など様々です。

2020年度開催予定プログラム

- カリフォルニア大学サンディエゴ校ウインタープログラム
- オタゴ大学ウインタープログラム
- インドネシア大学ウインタープログラム
- 浙江大学ウインタープログラム
- INSA Lyonウインタープログラム

協定校・大学連合・国内外の機関等が主催するプログラム

上記以外にも、東京大学が加盟する大学連合や、国内外の大学・機関が実施し、東京大学の学生のために参加枠が設定されたプログラムがあります(p16参照)。

全学短期派遣プログラム年間募集サイクル

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
<p>全学短期派遣プログラムのうち、グローバルキャンパス推進本部担当サマー・ウインタープログラムの募集サイクル例です。</p> <p>グローバルキャンパス推進本部担当サマー・ウインタープログラムに限らず、短期派遣プログラムの多くは夏季(6~8月頃)、冬季(1~3月頃)に実施されます。募集期間が短く締切が早いプログラムも多いため、参加可能なプログラムの選択肢を広げるには、TOEFL・IELTS等を予め受験し、必要なスコアを所持しておくことが大切です。</p> <p>※この募集サイクルは2019年度実績をもとに作成しているもので、変更される場合があります。</p>		<p>サマープログラム募集時期</p> <ul style="list-style-type: none"> ○情報収集・学内申請書作成 ○5月下旬学内応募締切 ★説明会も開催されます 	<ul style="list-style-type: none"> ○学内選考(書面) ○留学開始までの手続き 		<p>プログラム開講</p>							
						<p>ウインタープログラム募集時期</p> <ul style="list-style-type: none"> ○情報収集・学内申請書作成 ○10月下旬学内応募締切 ★説明会も開催されます 		<ul style="list-style-type: none"> ○学内選考(書面) ○留学開始までの手続き 			<p>プログラム開講</p>	

グローバルキャンパス推進本部担当サマー・ウインタープログラム一覧

最新情報はこちら



各プログラムについて、下記の一覧やGo Global ウェブサイトにある過去のプログラム情報及び最新情報を参考に参加を検討してください。

<https://www.u-tokyo.ac.jp/adm/go-global/ja/program-list-short.html>

プログラム名	開催地	期間	プログラム費用 (航空費、食費等は別途自己負担)	奨学金 (注1)	募集人数	語学レベル	備考
ソウル大学校・東京大学合同サマープログラム	韓国・日本	約3週間	5万円	7万円	15名	英語でディスカッション等ができる	フィールドワーク+講義等
シェフィールド大学サマープログラム	英国	3週間	1,265ポンド程度	8万円または16万円	20名程度(学部学生)	中級(TOEFL 65~80程度目安)	語学研修+講義等
ウォリック大学サマープログラム	英国	4週間	2,396ポンド程度	8万円	20名程度(学部学生)	中級(TOEFL 70以上目安)	語学研修+講義+ホームステイ等
ストックホルム大学サマープログラム	スウェーデン	1週間	6,650スウェーデンクローナ程度	8万円	15名(学部学生)	英語でディスカッション等ができる	フィールドワーク+講義等
チュロンコン大学サマープログラム	タイ	2週間	11万円	7万円	15名	中級(TOEFL 64、TOEIC 600、IELTS 5.0以上目安)	フィールドワーク+講義等
キーンズランド大学サマープログラム	オーストラリア	約3週間	4,235豪ドル	14万円	18名程度	中級(TOEFL 65~80以上目安)	語学研修+ホームステイ等
上海交通大学サマープログラム	中国	約2週間	14万円	6万円	26名程度	問わない	語学研修+文化体験+学生交流等
カリフォルニア大学サンディエゴ校ウインタープログラム	米国	2週間	3,350米ドル程度	8万円または16万円	30名程度	中級(TOEFL 75~、TOEIC 750~目安)	講義+フィールドワーク等
オタゴ大学ウインタープログラム	ニュージーランド	3週間	2,701ニュージーランドドル程度	7万円	30名程度(学部学生)	問わない	語学研修+講義聴講+ホームステイ等
インドネシア大学ウインタープログラム	インドネシア	2週間	10万円	7万円	30名程度	中級(TOEFL 64、TOEIC 600、IELTS 5.0以上目安)	英語による講義+文化体験等
浙江大学ウインタープログラム	中国	2週間	6万円	6万円	30名程度	中国語学習歴は問わない	中国語講座+文化体験+学生交流等
INSA Lyonウインタープログラム	フランス	2週間	1,550ユーロ	8万円	10名程度(学部学生)	中級~上級(TOEFL 80程度、TOEIC 750、IELTS 6.5以上目安)	講義+フィールドワーク+語学学習等

※この一覧は2019年度開催プログラムの募集要項に掲載した情報をもとに作成しています。2020年度開催時には変更される場合があります。詳細は最新の募集要項を確認してください。
 (注1)2019年度は、要件を満たす者かつ希望者にのみ支給。2020年度は条件および金額が変更される場合があります。
 (注2)2020年2月1日現在での開催予定プログラムであり、変更される場合があります。

協定校・大学連合・国内外の機関等が主催するプログラム例

グローバルキャンパス推進本部担当サマー・ウインタープログラム以外にも、東京大学の協定校が実施するプログラムや東京大学が加盟する大学連合・国内外の機関が実施し、東京大学の学生向けに参加枠が設定されたプログラム、費用の一部を主催者が負担する海外研修や学生会議なども毎年多数実施されています。ここで紹介しているのは、実施されるいくつかのプログラム例です。毎年内容が異なるプログラムもありますので、最新情報はGo Global ウェブサイトでご確認ください。

<https://www.u-tokyo.ac.jp/adm/go-global/ja/program-list-short.html>

最新情報はこちら



プログラム名	開催地	時期	プログラム費用 (授業料・宿泊費)	募集人数 (注1)	語学レベル	募集開始	応募締切	備考
Berkeley Summer Sessions	米国	5～8月の3～10週間	コースにより異なる	30名	コースにより異なる	11月	1月	奨学金～48万円を支給(注2)
	カリフォルニア大学バークレー校(以下、UCバークレー)が実施するサマーセッション。毎年夏に、5つの異なる期間のセッションで、600を超える多様な分野の授業が開講されます。受講学生の多くはUCバークレーの学生ですが、全米および世界各地からも3,000名を超える学生を受け入れています。							
UC Davis Global Study Program- Summer Sessions	米国	6～9月の6～12週間	コースにより異なる	20名	コースにより異なる	11月	1月	奨学金～48万円を支給(注2)
	カリフォルニア大学デービス校がパートナー大学の学生向けに実施するThe Global Study Program (GSP)のサマーセッション。英語能力により受講コースが分かれており、関心とレベルに応じて授業を選択できます。							
香港大学 Learn, Live and Intern in China (LLIC) プログラム	香港	6～8月の8週間	奨学財団が負担	3名	英語力を駆使して十分なコミュニケーションがとれる	1月	2月	奨学金14万円を支給(注2)
	4日間の香港大学での英語による講義と7週間のインターンシップ(上海)を組み合わせた、香港大学が実施するサマープログラム。参加者の半数は香港大学の学生、残りの半数が世界の一流大学から参加しています。授業料・宿泊料・香港-インターンシップ先の航空賃はThe Victor and William Fung Foundationの支援により無料となります(p41参照)。							
Deutschkurse- Learn German in Munich	ドイツ	8月の3週間程度	985ユーロ程度	5名	問わないがドイツ語で実施される	2月	3月	奨学金8万円を支給(注2)
	ミュンヘン・ルートヴィヒ・マクスミリアン大学(LMU)が提供する3週間のドイツ語集中コース。文化体験も含まれ、修了した学生にはLMUの単位(ECTS)が付与されます。							
パリ政治学院(Sciences Po) European Studies Programme	フランス	2～3月の4週間程度	4,000ユーロ程度	7名程度	上級(TOEFL iBT 87、またはIELTS 6.0必須)	10月	11月	奨学金10万円を支給(注2)
	日本のパートナー大学向けに開催される。EU(欧州連合)の歴史、政治、法律、経済などに関する講義やディスカッションを通して学ぶプログラム。希望者はフランス語講座も受講可能です。							
IARU Courses	加盟大学	コースにより異なる	コースにより異なる	各コース若干名	コースにより異なる	12月	2月	奨学金～24万円を支給(注2)
	IARU(International Alliance of Research Universities, 国際研究型大学連合)は、将来の世界的リーダーを養成するトップクラスの11研究大学による、教育研究における連携推進を目的として2006年に設立された大学連合です。そのIARUに加盟する世界トップレベル大学が提供する短期留学プログラムです。 【加盟大学】 オーストラリア国立大学、スイス連邦工科大学チューリッヒ校、シンガポール国立大学、北京大学、ケープタウン大学、カリフォルニア大学バークレー校、ケンブリッジ大学、コペンハーゲン大学、オックスフォード大学、イエール大学、東京大学							
AUAが実施するプログラム	加盟大学	プログラムにより異なる	派遣先大学が一部負担するプログラムも多い	若干名	プログラムにより異なる	随時	随時	
	AUA(Asian Universities Alliance, アジア大学連盟)は、アジアの国・地域を代表する15大学で構成され、加盟大学の連携強化を通じて、地域・世界の重要な諸課題に取り組むことを目的として2017年に設立された大学連合です。プログラムは毎年異なります。過去に開催されたプログラムの例、最新情報・詳細はGo Global ウェブサイトをご参照ください。 【加盟大学】 清華大学、北京大学、香港科学技術大学、ソウル大学校、シンガポール国立大学、チュラロンコン大学、インドネシア大学、マラヤ大学、コロムボ大学、キングサウド大学、ナザルバエフ大学、ヤンゴン大学、アラブ首長国連邦大学、IITボンベイ、東京大学							
国内外の機関等が実施するプログラム	スウェーデン	12月の1週間程度	国際科学技術財団が負担	若干名	英語力を駆使して十分なコミュニケーションがとれる	6月	8月	
	ノーベル財団の協力でスウェーデン青年科学者連盟が主催しているセミナー。将来の科学技術を担う世界の優秀な若者が一堂に会し、1週間の日程で交流するプログラム。ノーベル賞授賞式への出席のほか、他国学生との交流やストックホルム近郊の大学や研究機関への訪問、ノーベル賞受賞者による講演等に参加します。							

※この一覧は2019年度開催プログラムの募集要項に掲載した情報をもとに作成しています。2020年度開催時には変更される場合があります。詳細は最新の募集要項を確認してください。
(注1)東京大学内での募集人数です。(注2)2019年度は、要件を満たす者かつ希望者へのみ支給。2020年度は条件および金額が変更される場合があります。

短期プログラム 体験記



氏名：大木 涼太郎さん
所属・学年(プログラム参加時)：経済学部3年
参加プログラム：IARU Courses - Introduction to Chinese Economy (北京大学)
留学期間：2019年7月(3週間)

講義を通じて、北京大学の教授と親密になり、僕が帰国する前日には教授と2人で市内観光に行きました。その道中で討論した中国の現状や東アジアの展望は今でも新鮮な記憶として残っています。

中国と日本の架け橋となれるように

①留学を決めたきっかけ

1年生のとき、体験活動プログラムに参加したのをきっかけに中国に大きな興味を持つようになりました。そのような中、経済学を学んでいる身として中国経済を現地で学んでみたいと思いました。

②プログラムの内容

午前中には、中国経済に関する講義が行われ、午後にはプレゼンやディスカッション、時にはフィールドワークが行われました。午前で提起された課題に対して、午後のセッションで解決策を探求するという流れでした。

③プログラムを勧める点

このプログラムは、世界中から来た学生と北京大学の優秀な教授との交流や議論を通じて、中国に関して深い理解を得られるだけでなく、生まれ育った国日本を様々な角度から見るができる機会を提供してくれます。

非常に密度の濃い2週間半を過ごしました。毎日夜の12時ごろまでレポートやプレゼン準備に追われ、大変な日々でしたがそれだけ得られたことも大きかったです。得られたことが大きく2つあります。一つは、中国という国が本当に面白い国であるということ。大学に進学して以来、実に中国には何度も足を運びましたが、北京大学での学習を通してさらにその奥深さ・潜在性に取り憑かれました。もう一つは、日本を知る大切さ。海外に出て、日本人として必要とされることは「日本」についてです。海外の優秀な学生たちが自分以上に日本の歴史・経済に深い見識を持っていることは恥ずかしいことでした。まとめると、本プログラムは様々な交流を通して、中国と日本の架け橋となれるような存在になっていきたいと思わせてくれた素晴らしい経験でした!

・渡航費	3.5万円	奨学金と費用と
・プログラム費(宿泊費を除く)	10万円	
・宿泊費	2万円	
・その他(娯楽費・保険代等)	2万円	
・プログラム付属の奨学金	6万円	

短期プログラム 体験記



氏名：金山 裕生さん
所属・学年(プログラム参加時)：教養学部文科一類2年
参加プログラム：ソウル大学校・東京大学合同サマープログラム
留学期間：2019年8月(約2週間)

ソウル大生は企業でのインターンや兵役などの関係で5～6年かけて学部を卒業することが多いそうです。東大生も留学や課外活動で1、2年使ってもいいかなと思いました。

日韓の今を感じ、考える

①留学を決めたきっかけ

日韓関係が悪化していた時期だからこそ、メディアなどからの情報では分からない現地の様子を直接見てみたい、韓国社会のリーダーになるであろうソウル大生と率直に議論してみたいと思いました。

②プログラムの内容

ソウル大生が1週間東京に、東大生が1週間ソウルなどに滞在して英語によるレクチャー・施設見学を受けました。学生同士の議論や発表を行って、日韓関係などについて自分なりの考えを持てるようになりました。

③プログラムを勧める点

日本と共通点が多い国だからこそ、歴史・社会に対する考え方、IT化の進行度合いなどの違いを敏感に感じることができます。1日のプログラムが終わった後に、班のメンバーで観光や夕食を楽しめます。

南北の境界地帯やサムスン本社の見学は、韓国の政治経済の核心部分を学べる刺激的な経験でした。国会や戦争記念館などでは、韓国政府が国民に訴えたいことと日本側の主張との違いを感じ取れました。学生同士で意見をぶつけあうことで、教育や議論を通じて正しい知識を身につけること、相手の考え方を理解しようとするこの大切さを感じるとともに、学生個人としての違いはほとんどないと思いました。国同士の対立が市民間の関係も悪化させてしまう現在の状況を解決して行くのが自分達の世代の課題だと強く思いました。そのためにも、日本や自分自身のことについて英語で伝えられるようにしたいです。また、漫画・アニメ・芸能などをきっかけに日本が好きになったというソウル大生が多かったので、普段見落としがちな文化の力を感じました。

・渡航費	5.2万円	奨学金と費用と
・プログラム費	5万円	
・宿泊費	(プログラム費に含まれる)	
・その他(娯楽費・保険代等)	4万円	
・プログラム付属の奨学金	0円	



氏名：俵 健太郎さん
所属・学年(プログラム参加時)：教養学部理科一類2年
参加プログラム：ストックホルム大学サマープログラム
留学期間：2019年8～9月(約10日間)

ホステルで一緒に部屋になった世界各地からやってきた外国の方とも仲良くなります。もちろん一緒に参加した仲間とはとても仲が良く、今でもご飯を一緒に食べたりショッピングをしたりします!!

生の声を聞く。生の声で届ける。

①留学を決めたきっかけ

人に最も影響を与えるのは教育だと考えており、その水準が高いことで有名な北欧に行ってみたくて考えていました。建築学科を志望していたので、歴史のある街並みや博物館・美術館も非常に楽しみでした。

②プログラムの内容

ストックホルム大学・スウェーデン王立工科大学(KTH)・カロリンスカ研究所を回り、イノベーションやノーベル賞に関する様々な講義を受けます。最後に現地の方へのインタビューを元にスウェーデンに関するプレゼンをします。

③プログラムを勧める点

3機関を回りながら様々な専門分野の方々の講義を受けるだけでなく、締めくりにプレゼンをすることでアウトプットもできます。現地の学生に観光案内してもらうこともあり、学びと遊びのバランスが優れています。

最も印象に残っているのは、最終日のプレゼンとそれに向けたインタビューです。私たちのペアは、大学における学生および研究者の待遇や環境に注目し、ストックホルム大学のResearch Support Officeの所長やカロリンスカ研究所のInternational Relations Officeの上級顧問、KTHを1年間休学し留学生を歓迎する活動に専念している学生兼会長に、直接お話を伺うことができました。インターネットで調べたり、人づてに聞いたりするのは全くわからない話を、ペアと徹夜でまとめ、発表したのを覚えています。最後には、コーディネーターやお世話になった教授の方々に向けて締めくくりの挨拶をさせていただいて、非常に緊張しましたが、自分の成長を強く感じられました。本当に参加してよかった!

・渡航費	15万円	奨学金 費用と
・プログラム費(宿泊費を除く)	約1.4万円	
・宿泊費	4万円	
・その他(娯楽費・保険代等)	5万円	
・プログラム付属の奨学金	0円	



氏名：ブントン ユッコントンさん
所属・学年(プログラム参加時)：教養学部文科二類2年
参加プログラム：Berkeley Summer Sessions(カリフォルニア大学バークレー校)
留学期間：2019年7～8月(1ヶ月半)

この地域は家賃の急上昇による格差問題が激しいのでひたたくりはほぼ日常的に起きます。また、滞在時には水ぼうそうにかかった学生もいたので渡航前の予防接種には気を付けてください。

刺激が絶えなかったアメリカの夏

①留学を決めたきっかけ

履修した授業数が少なく、期末試験もなかった一学期の時間を有効活用したいと思っており、アメリカの大学の授業が体験できる良い機会だったので参加しました。

②プログラムの内容

異なる5つの期間で行われる各セッションごとに違う分野の授業が用意されており、現地の学生や他の留学生と共に履修します。セッションDは社会学や経済学系統の授業が多かったです。

③プログラムを勧める点

必修や単位などを気にせず面白いと感じた物を学び、日本の大学とは違う授業形態を体験しながら、世界中から集まってきた多様性溢れるクラスメートと交流が出来る良い環境だと思います。

バークレー校はリベラルな考え方が根強く、テクノロジー、環境、格差問題などについて学ぶには最高の場所でした。毎日のように新しい知識を叩き込まれ、ディスカッション、フィールドワーク、小論文に追われ、刺激が絶える事はありませんでした。泊まっていた国際寮では交流イベントやツアーも多く開催されていて、自分はミュージカル鑑賞やシリコンバレーのツアーなどに参加しました。また、丁度同じ時期に交換留学をしていた高校同期と奇跡的な再会を果たし、二人でヨセミテやタホー湖などの観光地を回って充実した週末を過ごす事が出来ました。結果的には、ハードに勉強と旅行などを繰り返して、体力的にもメンタル的にも自分の限界を試された6週間だったと思います。

・渡航費	7.3万円	奨学金 費用と
・プログラム費(宿泊費を除く)	40万円	
・宿泊費	30万円	
・その他(娯楽費・保険代等)	14.5万円	
・プログラム付属の奨学金	32万円	



氏名：前田 将吾さん
所属・学年(プログラム参加時)：教養学部4年
参加プログラム：クィーンズランド大学サマープログラム
留学期間：2019年8～9月(1ヶ月間)

週末に一人で近くの島に観光に行ったのですが、そこでウガンダとインドと南アフリカの人と知り合いになって帰りは車に乗せてもらったということがありました。一人行動も悪くありません。

2019年は、冬が2回やってきた。

①留学を決めたきっかけ

以前からオーストラリアの多様な気候に惹かれていたことに加えて、サマープログラムの中で期間が5週間と最も長い点、ホームステイを体験できる点が魅力的だったので、このプログラムを選びました。

②プログラムの内容

平日毎日4時間行われる授業では、文法、単語、リーディング、リスニング、ライティング、スピーキングがバランスよく学習できました。週2回各2時間のアカデミックモジュールでは、ポスター発表に取り組みました。

③プログラムを勧める点

1ヶ月という程度まとまった期間でホームステイを通して現地の英語や海外文化を体験し、一回りも二回りも豊かな人間になれる機会だと間違いなく言えます。大学から奨学金が貰えるため、ハードルも幾分低いです。

参加した意義を端的に述べると「日本を相対化することができた」ということに尽きると思います。私はこのプログラムまで、日本の当たり前を当たり前だと思いつつ生きてきました。しかし一度日本を出て生活する中で、他の国には他の国の当たり前があるんだ、と俯瞰的に日本という国を捉えることができるようになった気がします。世界には日本が夏の時に冬の国もあるんですよ、地球ってすごいですよね。英語についても、自分の英語の長所や短所、改善方法などが明確になったとともに、自分の英語が意外と海外でも通用するということが少し自信も持てました。そして英語が苦手でも、それを理由に尻込みせずに話の中に飛びこむことが大事であるということも大きな学びでした。自分の人生にとって大変意義深く、記憶に残るプログラムだったと思います。

・渡航費	10万円	奨学金 費用と
・プログラム費(宿泊費を除く)	22万円	
・宿泊費(ホームステイ)	10万円	
・その他(娯楽費・保険代等)	10万円	
・プログラム付属の奨学金	14万円	



氏名：松原 えみさん
所属・学年(プログラム参加時)：文学部3年
参加プログラム：上海交通大学サマープログラム
留学期間：2019年9月(2週間)

上海はご飯がとても美味しい上に安く、滞在中、ご飯に困ることはありませんでした。日本にも支店があるお店に行った時は日本よりも格段に安く美味しい北京ダックを食べることができました。

上海で最高の夏を体験

①留学を決めたきっかけ

中国関連の専攻なのに中国に行ったことがなく行ってみたいと思っていた時にこのプログラムを見つけ応募しました。また、英語をメインで使うプログラムが多い中、中国語を主に使用する点も魅力的でした。

②プログラムの内容

平日は、午前中、大学で習熟度別の中国語の授業を受講し、午後は中国文化や現代の中国を体験できる様々なアクティビティを体験しました。休日は自由行動で、上海市内を観光しました。

③プログラムを勧める点

多種多様なアクティビティが用意されている点がとても魅力的でした。また、東大の学生だけでなく、上海交通大学や大阪大学の学生など様々な背景を持つ学生と交流する機会を持ち人脈を広げることができる点もよかったです。

東大の前期課程から大学院生まで様々な学年の人たちが集まっただけでなく、大阪大学の方達も同じプログラムに参加していて、14日間を一緒に過ごしたのでとても仲良くなることができました。今も交流を持ち続けている人もいます。上海交通大学の学生とも私たちが上海に行く前から連絡を取り合い、様々なサポートをしてくれたのでストレスなく過ごせました。また、2週間上海の中心部で生活したり、多種多様なアクティビティに参加することを通じて、個人で観光した場合、体験できない中国の様々な面を感じることができました。夜、スーパーに行って有人レジがなく、電子決済の手段を持っていなかったため、何も買えなかったのはいい思い出です。このプログラムは参加して絶対に損はしません!迷ったらぜひ参加してみてください!

・渡航費	8万円	奨学金 費用と
・プログラム費	14万円	
・宿泊費	(プログラム費に含まれる)	
・その他(娯楽費・保険代等)	5万円	
・プログラム付属の奨学金	6万円	

2. 留学・国際交流プログラム (その他のプログラム)

1) 国際総合力認定制度 (Go Global Gateway)

東京大学は、学生の皆さんに大学生活を通じて、世界の多様な人々と共に生き、共に働く力(国際総合力)を身につけてもらいたいと考えています。2018年4月から国際総合力認定制度 (Go Global Gateway)を開始しました。これは、学生の皆さんが、入学後の早い時期から世界を意識し、国際総合力を身につけるためのものです。そのための学びや体験を自分で考え、実践することで、国際総合力の認定証を大学から得ることができます。将来の就職や進学にも役立つものです。

対象者

2018年度以降の前期課程入学者全員

国際総合力の5つの要素

「国際総合力」は、右図の5つの要素から構成されます。

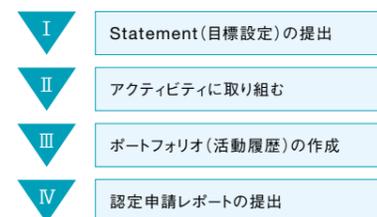
在学中に5つの要素をバランス良く身につけて、広い視野をもって様々なフィールドで活躍することを期待しています。



ポイント!

- グローバルキャンパス推進本部が主催する国際交流イベント・留学プログラムなどに参加できます!
- 語学検定試験 (IELTS、TOEFL など) の対策講座を受講できます!
- 自分だけのポートフォリオ (活動履歴) を作れます!

認定までの流れ



国際総合力を身につけるために、在学中に何をすべきか、どのように国際総合力を身につけたいかの目標設定を行います。その後、在学中に下図に指定するアクティビティに取り組み、条件を達成すると、国際総合力の基礎的な力を身につけたものとして認定証が授与されます。

詳細はこちら



<https://www.u-tokyo.ac.jp/adm/go-gateway/ja/>

アクティビティ

1	外国語学修	前期課程外国語科目(初修・既修)の必要単位数を取得 第三外国語科目の単位取得
2	授業・コース	母語以外で実施される授業科目の単位取得 / MOOCsの修了 / 研究・学習プログラム / インターンシップなど
3	海外経験	留学(3ヶ月未満 / 3ヶ月以上) / フィールドワーク / インターンシップ / ボランティアなど
4	国際交流活動	母語以外で開催される講演会・イベント等への参加 / 本学における国際交流イベントの運営に携わるなど

これまでに実施したイベント等
 ・短期海外留学プログラム
 ・著名人による講演会・交流会
 ・留学経験者や留学生との懇談会
 ・IELTS、TOEFL 受験対策講座
 ・語学検定試験奨励金支給制度



お問い合わせ先: 国際総合力認定制度 Go Global Gateway 担当 go-gateway.adm@gs.mail.u-tokyo.ac.jp

2) GLP-GEFIL 東京大学グローバルリーダー育成プログラム

GLP-GEFIL (Global Education for Innovation and Leadership) は、国際社会における指導的人材の育成を目的とした学部学生対象の特別教育プログラムです。GLP-GEFIL では、プログラムの一環として、世界トップレベルの大学の厳選された海外プログラム等に、修学中に2回参加する機会を設けています。また、海外派遣にあたっては、協賛企業の寄付による奨学金(地域、期間等に応じて最高100万円まで)を支給します。GLP-GEFIL は、語学力や意欲等により選抜された学生が履修できます。学部2年生 (PEAK 学生は1年生) を対象に、年度に一回、選抜を行います。詳細はウェブサイトをご覧ください。
 [GLP-GEFIL ウェブサイト] <http://www.glp.u-tokyo.ac.jp>
 [facebook] <https://www.facebook.com/Utokyo-Glp-Gefil-東京大学グローバルリーダー育成プログラム-589069901189419/>



GLP-GEFIL 海外プログラム派遣先例 (2020年度)

プログラム名	開催地	期間
LSE-PKU Summer School in Beijing	中国	8月 2週間
Nanyang Technological University Singapore	シンガポール	6~7月 6週間
Stanford Summer International Honors Program (SSIHP)	アメリカ	6~8月 8週間
Harvard Summer School	アメリカ	6~8月 7週間
Yale Summer School	アメリカ	5~7月 5週間
University of British Columbia, Vancouver Summer School	カナダ	6~8月 4週間
Pembroke-King's Summer Programme	イギリス	7~8月 6週間
LSE Summer School	イギリス	6~8月 3週間
Oxford: International Politics Summer School	イギリス	8月 2週間
Geneva Graduate Institute Summer Programme	スイス	6~8月 4週間
Munich Summer Program 'Management Practices and Corporate Communications in a Global Environment'	ドイツ	8月 3週間
RWTH Aachen University Engineering Summer School	ドイツ	6~8月 4週間
Helsinki University Summer School	フィンランド	8月 2週間
HEC Paris Summer School	フランス	6~7月 2週間
Grotius Centre for International Legal Studies (Leiden University)	オランダ	6~7月 4週間

※上記はGEFIL履修生を対象として2020年度に提供する海外プログラムの一部です。詳細はウェブサイトをご覧ください。 <http://www.glp.u-tokyo.ac.jp/gefil/abroad/>

GLP-GEFIL の概要

1. GEFIL 実践研究: 学生自身が関心を持つ地球規模の問題を対象に、創造的・学術的な研究プロジェクトを設計・実施していくことを目標とします。
2. GEFIL 海外プログラム: 3年次及び4年次に、世界トップレベルの大学の厳選された海外プログラムやインターンシップ、海外でのボランティア活動に参加します。
3. グローバルリーダー講義: 世界の第一線で活躍しているビジネスリーダー、起業家、国際的専門家を迎えて行う講義です。
4. GEFIL 共通講義: GLP-GEFIL の主幹メンターによるインタラクティブなオムニバス講義です。グローバルな課題に取り組むためのアカデミック・スキルの獲得を目指します。



協賛企業

東京大学グローバルリーダー育成プログラムの海外派遣の奨学金は、趣旨にご賛同いただいた下記の企業様の支援によって実現しています。
 株式会社IHI、旭化成株式会社、アステラス製薬株式会社、エーザイ株式会社、江崎グリコ株式会社、ABB株式会社、大塚製薬株式会社、JFEホールディングス株式会社、塩野義製薬株式会社、*住友商事株式会社、住友生命保険相互会社、住友不動産株式会社、ソニー株式会社、ソラリス株式会社、武田薬品工業株式会社、東海旅客鉄道株式会社、東京海上日動火災保険株式会社、東レ株式会社、日本たばこ産業株式会社、日本調剤株式会社、野村證券株式会社、東日本旅客鉄道株式会社、富士電機株式会社、株式会社三井住友銀行、三井不動産株式会社、株式会社三菱ケミカルホールディングス、三菱重工業株式会社、三菱電機株式会社、株式会社LIXIL (2020年2月現在)
 *住友商事株式会社は、東京大学GLPリーディングパートナーです。
 お問い合わせ先: GLP推進室 glp-gefil.adm@gs.mail.u-tokyo.ac.jp

GLP-GEFIL
ウェブサイト
に
アクセス



3) 教養学部前期課程 主題科目「国際研修」・ 後期課程「後期国際研修」

「国際研修」「後期国際研修」は、学生が異なる言語・文化の環境に触れ、国際交流の現場を体験し、グローバルな視野を養うことを目標とする授業です。授業内容としては、(1)海外教育機関との共同プログラム、(2)現地の学生との合同見学・合同実習等を含む短期の海外研修、(3)海外の学生との合同国内研修、といった様々な活動があります。そのような機会によって得られる成果が単位として認定されます。本授業の多くは、6～9月中旬、1月末～3月に実施されます(海外に渡航する前に、通常のセメスター／ターム中に事前講義を実施する場合もあります)。

「国際研修」「後期国際研修」の受講にあたっては、海外渡航経験の有無は問いません。むしろ、学生にとってのはじめての海外経験を、後押しする科目です。進んで自分の視野を開こうとする、学生の積極的な参加姿勢がのぞまれます。

なお、授業によっては、参加者の選抜を行ったり、ある水準以上の語学力を求めたりする場合があります。学生が負担する費用については、授業によって異なるので、詳細はそれぞれの授業のシラバスを参照し、ガイダンスで説明を受けてください。ガイダンスはA/Sセメスター開始直後に実施されますので、Global Komabaのウェブサイトに掲載されるスケジュールをご確認の上、是非ご参加ください。

Global Komabaのウェブサイトにアクセス

<http://www.globalkomaba.c.u-tokyo.ac.jp>



「国際研修」「後期国際研修」過去の実施例

講義題目	研修地
UTokyo Summer Internship Program in Kashiwa	日本
ソウル大学校韓国語研修サマープログラム	韓国
EUの政治	ドイツ
ドイツ語サマースクール	ドイツ
TLPフランス語特別研修	フランス
平和のために東大生ができること	カザフスタン/トルクメニスタン
短期集中英語:オーストラリアで上級を目指す!	オーストラリア
中国語トライリンガルプログラム生向け台湾研修	台湾
イタリアで考古学を体験する	イタリア
変容するメキシコ	メキシコ

※上記の授業の開講は年度によって変更される場合があります。

プログラム参加者の声

ボン・ドイツ語サマースクールに 参加した学生の声

私は今まで外国に行ったことがなかったので、今回の研修が初めての海外でした。ドイツ語の学習を始めてまだ日も浅く、あまり多くは喋れませんでした。さらに、周りに帰国子女が多い中、自分は英語も話したり聞いたりすることにあまり得意ではないため、不安も多かったのです。しかし、想像していた以上に充実した2週間となりました。ドイツ語や英語の学習に対するモチベーションが一気に上がり、色々な施設を自分の目で見学し、TLPのみんなとの繋がりも深まり、本当に有意義で、終わってほしくない、幸せて貴重な2週間でした。普段日記などはつけないのですが、この2週間の出来事は細かいことまで日記につけました。いつまでも忘れたくない、一生の思い出です。

※右の写真はボン・ドイツ語サマースクール以外のプログラムの写真も含まれています。



お問い合わせ先:教養学部 国際交流センター グローバリゼーションオフィス 21KOMCEE West B1F(globalpraxis@global.c.u-tokyo.ac.jp)

4) 体験活動プログラム・海外企業体験活動

① 体験活動プログラム

体験活動プログラムは、学部学生の皆さんが今までの生活と異なる文化・価値観に触れ、新しい考え方を身に付けることを目指したプログラムです。奨励金の支給等による経済的な支援があり、皆さん自身もプログラムの企画・実施に携わることができます。

これまで、海外で働くOB・OG訪問などの国際・就労体験、院内学級における学習支援などのボランティア、北海道の農場・牧場作業などの農林水産業・地域体験、学内研究室での研究体験など、正課授業では経験することが難しいさまざまな機会を提供しています。海外で実施する国際交流体験活動プログラムの多くは、夏季・春季休業期間を中心に1週間～1ヶ月程度活動するものです。自由な時間を利用して、積極的に参加してください。

今年度実施するプログラム、過去に行われたプログラム報告書については体験活動プログラムのウェブサイトをご参照ください

<https://www.u-tokyo.ac.jp/ja/students/special-activities/h19.html>



国際交流 体験活動プログラム一覧(2019年度)

開催地	時期	期間	プログラム名(通称)
中国(海南島)	8月	9日	中国・海南島の自然保護区管理を知る
韓国(ソウル)	8月	9日	大学・企業・文化体験 in 韓国2019年 —韓国を知る、韓国から日本を見る—
シンガポール	9月	9日	シンガポールでビジネスを学んでみよう
カンボジア	8月	8日	医学と平和
インド(カンパール)	2～3月	8日	インド体験活動 —インド工科大学での日本語授業サポート・インド赤門会との交流—
イギリス(オクスフォード)	8～9月	29日	TOPS2019(Tokyo Oxford Programme of Summer 2019)
イギリス(ロンドン)	2月	8日	英国ロンドン、海外で働くとは
ドイツ(ミュンヘン)	9月	8日	ミュンヘン工科大学(TUM)での国際交流体験—日本語授業サポートおよびワークショップ—
サウジアラビア(リヤド)	2月	8日	サウジアラビア プリンセス・ヌーラ大学 国際交流体験活動
UAE(ドバイ・マスタードール・アブダビ・アルアイン)	9月	9日	アラブ首長国連邦の「いま」
アメリカ(ケンブリッジ)	8月	11日	ハーバード大学医学部研究室の訪問・ディスカッション
アメリカ(ボストン)	8月	9日	GTL Summer Intern for Systems Method Experience at MIT
アメリカ(シカゴ・ワシントンDC)	8月	10日	アメリカで仕事をすることの素晴らしさとチャレンジを、アメリカのハートランドであるシカゴと国際都市ワシントン訪問を通して多角的に探ろう
アメリカ(ニューヨーク)	2～3月	8日	コロンビア大学所属東大卒業生の教授、研究者、学生を訪問・ディスカッション
アメリカ(コネチカット)	8～9月	18日	ニューイングランド有機農場でのCommunity Supported Agriculture体験(米国)
アメリカ(ニュージャージー)	8～9月	16日	オーガニック農場でのSustainable agriculture体験(米国)
アメリカ(ソルトレイク・デルタ)	8月	11日	米国ソルトレイクシティおよび近郊における国際交流・研究体験活動
東京(本郷キャンパス)	10～翌年1月	4ヶ月	日本語教室でのボランティア
東京(本郷キャンパス)	9～翌年3月	7ヶ月	外国とのつながりを持つ小・中学生対象 日本語・学習支援教室でのボランティア活動
東京(本郷キャンパス)	8～翌年3月	8ヶ月	日仏の医工学間の国際共同研究(SMMIL-E:最先端医療技術の連携)を知ろう
東京(JICA東京センター)	8～9月	5日	JICAの国内研修現場で国際協力を知る

※上記プログラムは2019年度のもので、2020年度は実施しないプログラム、上記に記載のないプログラムもありますので、必ず学内説明会、及びウェブサイトで最新情報を確認してください。
※体験活動プログラムは国際交流体験だけでなく、ボランティア、就労体験、農林水産業・地域体験、フィールドワーク、研究室体験など、様々な活動を含みます。上記表は国際交流体験のみの抜粋です。

体験活動プログラム参加者の声

パークレー市、ソルトレイクシティ、デルタ市に10日間程度滞在し、UCパークレー校、ユタ大学、デルタ市の宇宙線センターやサイオン国立公園へ訪問しました。大学訪問では学科の授業や特別講義、研究室見学によって、アメリカ中西部の州立大学の規模の大きさ、研究施設の充実ぶりを実感しました。またユタ州で働く日本人や日系アメリカ人との交流、デルタ市の日系アメリカ人の収容所跡への訪問を通して未だにユタ州に存在する「日本」の存在を感じました。デルタ市では宇宙線研究施設のスケールの大きさに驚くとともに、地面に寝転がって満天の星空を見たことも良い経験となりました。



米国ソルトレイクシティおよび近郊における国際交流・研究体験活動
教養学部前期課程2年
木本 直希さん



①Systems Method Experience at MIT ②米国 ニューイングランド有機農場
③中国・海南島の自然保護区管理 ④アラブ首長国連邦

②東大生海外体験プロジェクト(海外企業体験活動)

「海外企業体験プロジェクト」は、経済界などで活躍する卒業生が、「留学する環境に恵まれた一部の学生だけでなく、より多くの学生に、積極的に海外体験をしてほしい」という理念により、自発的に寄附募集活動を進めている「東大生海外体験プロジェクト」の支援を受けた活動の1つです。

学部前期・後期課程の学生を対象とし、海外のオフィスや、海外で活躍する日本人の業務を実際に間近で見ることで、人生のグローバルキャリア形成を考えるきっかけとなるプログラムを実施しています。

活動場所はアメリカ、ヨーロッパ。世界各国にオフィスを構える日系企業で、多様な業務(マーケティング、システムデザインマネジメント、法務等)の体験を通して自身の専門知識やスキルを試す機会もあります。

この夏、海外の企業に飛び込んで視野を広げてみませんか。

今年度実施するプログラムの詳細については海外企業体験活動のウェブサイトをご参照ください

<https://www.u-tokyo.ac.jp/ja/students/special-activities/h001.html>



●海外企業体験プロジェクト プログラム一覧(2019年度版)

GROHE AG(ドイツ) 9月(2週間)/Rakuten USA, Inc.(アメリカ) 8月(9日間)

●応募締切・活動実施時期

応募締切:5月中旬(4月中旬からウェブサイト上で募集開始)/活動時期:8~9月の1~2週間程度

●協力

株式会社LIXIL、楽天株式会社、東京大学基金「東大生海外体験プロジェクト」

●参加者への経済的支援

往復渡航費、現地宿泊費、現地移動費など一人あたり上限50万円 ※航空券、宿泊施設は大学で指定します。

卒業生による寄附募集活動「東大生海外体験プロジェクト」による寄附金を原資に、活動に関する経済的な支援が行われます。

海外企業体験プロジェクト参加者の声

GROHE AG(ドイツ)

教養学部3年 森岡 桃子さん
デュッセルドルフにあるGROHE AG本社の人事部にて、現地の労働者組織「Workers council」の調査を行いました。社員の方とのインタビューを中心に、工場見学や研修制度への参加など様々なことに取り組ませて頂いたり、休日には旅行に行ったりと充実した2週間でした。楽しいことばかりではなく苦しかったことも沢山あります。社員の方と英語でのコミュニケーションが上手くとれなかった日の帰り道、悔しくて泣きながら歩いたことは一生忘れません。2度と体験できないような思い出と、尊敬できる方々との出会いと、自分の「殻」を破るきっかけくれた大切なプログラムになりました。



Rakuten USA, Inc.(アメリカ) (Project1: EC経営戦略業務の体験)

教養学部前期課程2年 福島 海さん
Rakuten USAの経営戦略本部にてEC市場の拡大施策を学び、実際の社内会議にも参加させて頂き、多くの社員の方々と交流する機会を頂きました。将来のキャリアを考える上で、数多くの社会人と交流を重ね、ビジネスの現場を目で確かめ、肌で体感する、という経験は非常に肝要です。今回のプログラムは舞台が海外であり、日本企業とも異なる貴重な体験をさせて頂きました。3・4年生はもちろんのこと、就職活動が本格化する前の1・2年生には是非参加し、キャリアの選択肢を広く持つきっかけにしてほしいと思います。



Rakuten USA, Inc.(アメリカ) (Project2: 米国企業内法務の体験)

法学部3年 新倉 仁美さん
Rakuten USAでの企業体験では、現代のビジネスに対するの理解を深め、また日本の社会を相対的に捉えることができ、貴重な経験となりました。体験の内容としては、配属された内部監査部に普段の業務を実際に体験したり、10以上の異なる部署の方々にインタビューをしたりしました。内部監査部という会社のガバナンスを担う部署から、会社全体を俯瞰して見ることが、今世界を動かしているIT企業がどのように価値を生み出し、どのような課題を抱えているのか理解することができました。将来社会に出る上で、社会・世界に対する視点をより豊かにしてくれたと感じています。



※上記プログラムは2019年度のもので、2020年度は情報・内容が変更される可能性があります。

5) インターンシップ

①東京大学グローバル・インターンシップ・プログラム(UGIP)

東京大学グローバル・インターンシップ・プログラム(UGIP)は、2019年度、世界で活躍できるグローバル人材の育成のため、ビジネスの最前線を体感できるプログラムとしてスタートしました。2019年度は、ダイキン工業が受入先となり実施しました。これは2018年12月17日に締結した産学協創協定のコア施策の1つで、ダイキン工業が世界150か国に広がる海外拠点に毎年50名規模のインターンシップ生を受け入れて、東京大学のグローバル化に貢献することを狙いとしています。

2020年度も継続して実施予定ですが、外務省の渡航安全情報などにより、内容やスケジュールを変更する可能性があります。また、今後、新たな受入先企業が追加される可能性があり、その際にも内容やスケジュールが異なる場合があります。

<https://www.u-tokyo.ac.jp/ja/students/special-activities/ugip.html>

情報については変更になる場合があります。
必ず事前説明会、ウェブサイトにて、今年度実施するプログラムや最新情報を確認してください



●応募資格(抜粋)

- ・学部又は大学院修士課程の学生
- ・空気に関するグローバルな社会課題やビジネスチャンスに関心を持っていること
- ・テーマの達成に向けて意欲を持って取り組めること
- ・ルール遵守の行動ができること
- ・英語によるコミュニケーション能力が一定基準をクリアしていることが望ましい
- ・成果報告会を含め全活動に参加できること

●参加者への経済的支援

本プログラムの活動中、現地活動における渡航費・宿泊費・交通費等についてはダイキン工業が負担します。

※一部費用については、立て替えのうえ後日精算となる場合があります。



①世界一周型 ビジネス提案インターンシップ

1チームあたり3~4人でテーマを持ち、夏季休業中に3週間をかけてダイキン工業の海外拠点を複数訪問し(中国、欧州、米国、アジア等)、現地社員との対話やフィールドワークを経て新たなビジネスを提案します。

②地域滞在型 プロジェクトワーク・インターンシップ

1チームあたり3~5人でダイキン工業の海外各地域拠点のいずれか(中国、欧州、米国、アジア等を予定)に夏季休業中に2週間滞在し、事業課題のテーマに挑戦します。

プログラム参加者の声

- ・ビジネスの最前線の海外オフィスで実際にインターンするという貴重な体験を通じて、非常に多くのことを学べた。
- ・とても有意義な経験になった。東大の海外プログラムに参加するのは初めてではなかったが、このプログラムはより実践的で、他のプログラムとは一線を画していると感じる。
- ・異なる文化、異なる意見をもつ多くの方々と交流できたことは自分の視野を広げる糧となった。また、オフィス内で考えただけのアイデアは実際の現場では受け入れられない点が多く、現場とのつながりを大切にすることが必要であるという実体験を積むこともできた。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
ダイキン工業を受入先とする場合	事前説明会	参加申請書提出	書類選考・面接 合格者説明会	渡航準備 事前学習会		現地活動	成果報告会 報告書提出

②Amgen Scholars Program

Amgen Scholars Program は、未来の科学者・イノベーターの育成を目的として、主に医学・生命科学系分野を専攻する学部学生を対象に、世界を代表する24の大学・機関において実践的・専門的・集中的な研究体験の場を提供する夏季インターンシップ・プログラムです。アジアで開催されるAmgen Scholars Asia Program(東京大学・京都大学・シンガポール国立大学・清華大学が参加)には、毎年世界中から集まった意欲ある学生が参加し、英語でコミュニケーションを取りながら、積極的に各々の研究活動に取り組んでいます。東京大学の学生は、上記4大学のいずれのプログラムにも応募することができます。

東京大学プログラム(UTokyo Amgen Scholars Program)参加者は、8週間のプログラム期間中、6つの大学院・研究所の研究室に所属し、先生や大学院生の指導とサポートのもと最先端の研究に参加して、その成果をまとめたポスターを作成し発表を行います(使用言語:英語)。またプログラム期間中は(原則として)全員本郷キャンパス近くの宿舎に滞在し、魅力ある様々なイベントを通じて懇親を深めながら、プログラム終了後もずっと続く仲間との交流の礎を築くことができます。さらに、プログラムの最後にはシンガポール国立大学で開催される4大学合同のアジア・シンポジウムに参加し、他大学プログラム参加者との交流を図ります。

東京大学で、アジアで、世界の仲間とつながろう!

ご応募をお待ちしています!

- プログラム期間 6月第2週～8月第1週(予定)
- 応募期間 11月1日～翌年2月1日
- 参加者への支援 奨学金25万円、シンガポール往復航空券、宿泊費 など
- 参加研究科・研究所 医学系研究科、工学系研究科、理学系研究科、農学生命科学研究科、薬学系研究科、生産技術研究所

UTokyo Amgen Scholars Programの詳細はこちら

https://www.u-tokyo.ac.jp/en/prospective-students/amgen_program.html



Amgen Scholars Asia Programの詳細はこちら

<https://amgenscholars.com/asia-program>



個人で留学、インターンシップ、ボランティア等に参加する

留学プログラムには、東京大学が募集するもの以外にも、海外の大学や民間の留学者などが募集するプログラムもあります。また、留学プログラム以外にも、海外で行う活動としてインターンシップやボランティアなどが海外企業、大学、国際機関等で実施されています。これらの内容・時期・期間は多岐に渡るため、皆さんの希望に合うものもきっとあるでしょう。東京大学の協定校や政府機関が募集するものについては、Go Global ウェブサイトでも随時案内しているので、参考にしてください。奨学金が支給される機会もあるので、併せて情報を集めるようにしましょう。

個人応募を行う際の注意

手続きを全て自分で進めることになるため、十分な情報収集を行うことが必要です。

(参考)日本学生支援機構「留学斡旋業者の利用について」

http://ryugaku.jasso.go.jp/oversea_info/basic/agency

また応募前に、留学時に所属する学部・研究科の担当部署にて手続きなどをよく確認しておくことも重要です。

プログラムを実施する大学、機関等の指示に従うのはもちろん、東京大学の「海外渡航危機管理ガイドブック」の内容もよく理解しておくようにしましょう(p45参照)。

6)学内でできる国際体験

東京大学では100以上の国と地域出身の約4,500名の留学生が学んでいます。留学の準備や国際交流の機会として、キャンパス内での国際体験を活用しましょう。以下に一例を紹介します。

国際化教育支援室による国際交流活動の例

グローバルキャンパス推進本部国際化教育支援室では、さまざまな国際交流活動を実施しています。

(1)本郷キャンパス

留学生との交流を目的として、留学生支援室ではFACE (Friendship And Cultural Exchange)プログラム、中国語茶話会、言語交換プログラムなどを実施しています。また、国際交流を目的としたキャンパス内の学生活動の情報提供等も行っています。詳細は以下の「留学生支援ウェブサイト」でご確認ください。

詳細はこちら



<https://www.u-tokyo.ac.jp/adm/inbound/ja/life-interact-ac.html>



(2)駒場キャンパス

留学生とともに日本伝統芸能の鑑賞や文化体験をするイベントから、「ドッチビー&交流会」といったスポーツイベントまで、様々な国際交流の場を提供しています。また駒場IIキャンパスでは、毎週火曜日に国際交流を目的としたInternational Gatheringを開催しています。詳細はGlobal Komabaのウェブサイトでご確認ください。

詳細はこちら



<http://www.globalkomaba.c.u-tokyo.ac.jp>



(3)柏キャンパス

柏キャンパスで学ぶ留学生、外国人研究者およびその家族と1対1で交流するための「1対1交流プログラム」や「言語交換プログラム」を始め、日本人構成員と外国人構成員が学び合うためのイベントを定期的に行っています。また、英語学習支援として、英会話講座や英語相談オフィスアワー、英語論文執筆のためのワークショップなど、様々なプログラムを提供しています。詳細は以下よりご確認ください。

詳細はこちら



<https://www.u-tokyo.ac.jp/adm/inbound/ja/kashiwa.html>



International Lounge (IL)

ILは、本部と工学系研究科国際工学教育推進機構の国際教育部門(国際化教育チームおよび日本語教室(JLCSE))が主催する多文化国際交流の場です。学期中の毎週金曜日12:10~13:10に、2020年度からは工学部11号館の2階で開催されます。東京大学で学ぶ留学生と日本の学生が集まって、持ってきたランチを食べながら、リラックスした雰囲気の中で専門や国を超えて交流しています。趣味の話題から突っ込んだ議論まで、英語でも日本語でも気軽にしゃべりを楽しんでください。年に数回、ハロウィンやクリスマスなどの楽しいイベントも開催しています。英語が話せるようになりたい方、友達を作りたい方、国際交流に興味のある方、新しい人に出会うチャンスです!本郷キャンパスでちょっと身近な国際交流をしてみませんか。参加登録は必要ありませんので、どうぞお気軽にご参加ください。スケジュールや開催地などは以下でご確認ください。



Facebookにアクセス



<https://www.facebook.com/groups/423122758435246/>
<http://www.jlcse.t.u-tokyo.ac.jp/>

グローバル化推進オフィス(総合文化研究科・教養学部)

グローバル化推進オフィスでは、駒場キャンパスで学ぶ皆さんが、国内外で様々な国際経験を積めるようサポートする活動を行っています。活動の大きな柱は、海外を知る、海外で学ぶ、国際交流の3つです。

世界の様々な国や地域について広く見識を深めたい学生には、大使館員や海外出身の教員が、各国事情を語るカジュアルな講演会やセミナーを開催しています。過去にはイタリア、スウェーデン、オーストラリア、アメリカ、フランス、ブラジル、トルコ、メキシコ、インドネシア、マレーシアなどの大使館員の方々が様々なテーマでレクチャーを行いました。

国際交流に興味がある学生には、留学生や日本人学生が参加できるフィールドトリップや体験型セミナーを開催しています。例年秋には、留学生と共に学ぶフィールドトリップを行っています。その他、グローバル化推進オフィスと連携しながら交流活動や留学生支援を行う学生団体TGIFが、日本人学生や留学生が参加できる生協前での昼食会(毎週木曜日)や様々な交流イベントを企画・実施しています。

もっと積極的に、留学生をサポートしたいという学生には、GO Tutorという仕事もあります。チューターの任務は主に英語プログラムで学ぶPEAK1年生や交換留学生を学習面、生活面でサポートする事で、活動は主にグローバル化推進オフィスのラウンジで行います。年2回、学期初めに新メンバーを募集しています。

海外留学に興味のある学生向けには、留学相談会、TOEFL/IELTS説明会、留学成果発表会などを開催しています。オフィスでは、留学関連資料を閲覧でき、教職員や学生留学アドバイザーが随時個別の留学相談にも応じています。また交換留学プログラムで海外派遣が内定した駒場在籍の学生には年に2回、留学前研修を実施しています。

短期に海外で学びたい学生には、国際研修プログラムを提供しています(p22参照)。国際研修とは、異なる言語・文化の環境に触れ、国際交流の現場を体験し、グローバルな視野を養うことを目標とした短期の海外研修プログラムです。これまでに、オーストラリア、ギリシャ、フランス、メキシコ、イタリア、ドイツ、トルクメニスタン、ハンガリー、マレーシアなどで研修が行われました。

これらのイベント、プログラム、活動に興味を持った方は是非ウェブサイト、Facebookをチェックし、情報配信サイトに登録しましょう!



ウェブサイトへアクセス



<http://www.globalkomaba.c.u-tokyo.ac.jp>
<https://www.facebook.com/GlobalKomaba>

Global Studies Program

Global Studies Programは、教室での学びを通してアカデミックな国際交流の実践力を養うためのプログラムです。教養学部後期課程の学融合(学科横断型)プログラムの一つですが、本プログラムで提供されている科目は他学部の全ての学生に開かれており、科目受講が可能です。文化の多様性、多元化が進む現代において、他者や異文化に対して創造的に開かれた眼差しを獲得し、対話力を鍛えることの重要性はますます高まっています。このプログラムでは、文化的・社会的背景の異なる学生たちと共に学び、活動の場を共有することを通して、国際的な視野を身に付け、多言語、多文化の中で活躍できる人材の育成を目指します。「グローバル教養実践演習」では海外の学生とのディスカッション、グループワーク、近郊地域へのフィールドワークなどを通して共同演習を行います。また、交換留学生たちを交えてディスカッションの場を設けたり、卒業生や政府機関、外交関係で活躍されている方のお話を聴く企画を実施したりもしています。これらは他学部の学生のみならず1・2年生も歓迎ですので、ぜひ気軽に参加してください。このようにGlobal Studies Programは、特に留学を考えている学生には、キャンパスにいながらにしてプレ留学体験ができる場ともなっています。



Facebookにアクセス



<http://www.c.u-tokyo.ac.jp/info/academics/fas/joint-program/gst/>
<https://www.facebook.com/Global-Studies-in-Komaba-110316410401132>

UTokyo Global Summer Program 開講コース

UTokyo Global Summer Program はIARU加盟校及び戦略的パートナーシップ校より学生を受け入れるエリートプログラムです。世界トップレベルの大学の学生達と交流を深める事による「学内の国際化推進」を目標としています。以下の開催予定のコースはすべて英語で授業が行われ、学部後期課程の学生は受講が可能です(学部前期課程の学生は履修できません)。海外の学生とディスカッションやグループプレゼンテーションを行う授業を経て、英語力を鍛え、国際感覚を養い、日本にいながらにして留学同様の経験が積めます。質の高い授業は留学の準備としても効果的です。

(集中講義・2単位付与)

- Sustainable Urban Management (工学部)
- Japan in Today's World (法学部)
- Nanoscience (工学部)

※開講時期・講義内容については授業カタログを参照し、履修登録期間に履修手続きを行ってください。他学部聴講となる場合は所属学部・研究科の規則により履修可能かどうか確認してください。



詳細はこちら



<https://www.u-tokyo.ac.jp/en/prospective-students/iaru.html>

スペシャル・イングリッシュ・レッスン(SEL)

スペシャル・イングリッシュ・レッスン(SEL)は、工学系研究科国際工学教育推進機構の国際教育部門(国際化教育チーム)が主催する、英会話に慣れない・英語力を向上させたいという学生・職員向けのプログラムです。日常会話・プレゼンテーション・ディスカッション・TOEFL対策等さまざまなコースがレベル別に提供され、比較的低価格で受講できます。複数の外部英語学校から経験豊かな講師を招き、毎年SセメスターとAセメスターに8~10週間ずつ本郷キャンパスで放課後に開講しています。皆さんも週1~2回、集中して英語に取り組んでみませんか。特に、自分で英語を話すアウトプットの機会がない、そのために英語で言いたいことがなかなか言えないといったことに悩んでいる方には、絶対にお薦めです!SELによって、皆さんが本来持っている英語の潜在能力が発揮できるようになります。本郷キャンパス内で気軽に受講できるSELに、ぜひご参加ください。



詳細はこちら



<http://www.sel-ut.com>

7) 各学部・研究科の取り組み

① 学部・研究科間交換留学 協定校一覧

各学部・研究科が独自に行っている「学部・研究科間交換留学」の協定校一覧です。
プログラムへの応募方法、最新情報等は各学部・研究科の担当窓口で確認しましょう。

※(M)は修士のみ、(D)は博士のみ

国・地域	協定校	対象
法学政治学研究所・法学部		
中国	北京大学法学院	院
中国	北京大学国際関係学院	学部/院
韓国	ソウル大学校法科大学院	院
医学系研究科・医学部		
台湾	国立台湾大学医学部	学部
台湾	台北医学大学医学部	学部
シンガポール	シンガポール国立大学医学部	学部
アメリカ	ジョンスホプキンス大学医学部	学部/院
アメリカ	ペンシルバニア大学医学部	学部/院
アメリカ	ミシガン大学医学部	学部/院
アメリカ	シカゴ大学医学部	学部/院
アメリカ	ハワイ大学医学部	学部
ドイツ	ミュンヘン・ルートヴィヒ・マクスミリアン大学医学部	学部
スウェーデン	イェテボリ大学	学部/院
工学系研究科・工学部		
台湾	国立台湾大学工学院	学部/院
中国	大連理工大学	学部/院
中国	同済大学院 ※新領域と担当	学部/院
中国	北京交通大学	学部/院
中国	福州大学化学学院	学部/院
香港	香港理工大学建設・環境学部	学部/院
インド	インド工科大学マドラス校 ※情報理工と担当	学部/院
インド	インド工科大学ハイデラバード校 ※情報理工と担当	学部/院
インド	インド工科大学カラグプール校 ※情報理工と担当	学部/院
インド	インド工科大学カンプル校 ※情報理工と担当	学部/院
インド	インド工科大学デリー校 ※情報理工と担当	学部/院
インド	インド工科大学ボンベイ校 ※情報理工と担当	院
インド	インド経営大学院バンガロール校 ※情報理工と担当	院
インドネシア	インドネシア大学公衆衛生学部 ※対象専攻・学科限定	学部/院
インドネシア	バンドン工科大学 ※対象専攻・学科限定	学部/院
韓国	ソウル大学校工科大学	学部/院
シンガポール・中国	シンガポール国立大学設計・環境学部 同済大学 建築・都市計画学院 清華大学 建築学院 [AMU] ※新領域と担当	院(M)
タイ	アジア工科大学院	院
タイ	チュラロンコン大学工学部 ※対象専攻・学科限定	学部/院
タイ	タマサート大学国際工学部(SIIT)	学部/院
ベトナム	ベトナム国家大学ハノイ校理工科大学	学部/院
トルコ	中東工科大学工学部	学部/院
トルコ	イスタンブール工科大学理工学部	学部/院
アラブ首長国連邦	マスタート科学技術大学	学部/院
アメリカ	マサチューセッツ工科大学 ※対象学科限定	学部
アメリカ	カリフォルニア大学(全校)	学部/院
オーストラリア	南オーストラリア大学情報科学技術工学環境学部	院

国・地域	協定校	対象
オーストラリア	ロイヤルメルボルン工科大学	学部/院
オーストラリア	クイーンズランド工科大学理工学部	学部/院
ニュージーランド	カンタベリー大学工学部	学部/院
オーストリア	ウィーン工科大学	院
オーストリア	グラーツ工科大学	学部/院
デンマーク	デンマーク工科大学	学部/院
フィンランド	アールト大学(旧:ヘルシンキ工科大学)	学部/院
フランス	ソルボンヌ大学(旧:ピエール・エ・マリー・キュリー大学(パリ第6大学))工学部	学部/院
フランス	セントラルスープレック(旧:エコール・セントラル・パリ)	学部/院
フランス	エコールアトランティック(旧:エコール・デ・ミン・ド・ナント)	学部/院
フランス	フランス国立応用科学院リヨン校(INSA Lyon)	学部/院
フランス	エコール・ミン・パリ	学部/院
フランス	エコール・デ・ボン・パリテク	学部/院
フランス	航空宇宙高等学院(ISAE)	学部/院
フランス	国立民間航空大学院(ENAC)	学部/院
フランス	エコール・セントラル・リヨン	学部/院
フランス	トロワ工科大学	学部/院
フランス	パリ・サクレ大学	学部/院
フランス	コンピエーニュ工科大学	学部/院
フランス	サボア・モン・ブラン大学	学部/院
フランス	パリ・スッド大学(パリ第11大学)	学部/院
ドイツ	シュツットガルト大学	学部/院
ドイツ	カールスルーエ大学	学部/院
ドイツ	ミュンヘン工科大学(TUM)	学部/院
ドイツ	ダルムシュタット工科大学	学部/院
ドイツ	フリードリヒ・アレクサンダー大学エアランゲン・ニュルンベルグ工学部	学部/院
ドイツ	アーヘン工科大学数学、コンピューターサイエンス及び自然科学部・建築学部・土木学部・機械工学部・資源及びマテリアル工学部・電気及び情報学部 ※理学系と担当	学部/院
ドイツ	ウルム大学 ※理学系、情報理工と担当	学部/院
ドイツ	ブランデンブルク工科大学	学部/院
ドイツ	ワイマール・パウハウス大学土木工学部	院(M)
イタリア	トリノ工科大学 ※情報理工と担当	学部/院
イタリア	ミラノ工科大学	学部/院
イタリア	聖アンナ大学院ロボティクス研究所 [GSDM]	学部/院
オランダ	デルフト工科大学機械・海洋・マテリアル工学部	学部/院
オランダ	トエンテ大学	学部/院
ノルウェー	ノルウェー工科大学自然科学大学院	学部/院
ロシア	サンクトペテルブルク国立大学マネージメントスクール	学部/院
スペイン	マドリッド工科大学建築学部	学部/院
スペイン	バレンシア工科大学	学部/院
スウェーデン	チャルマース工科大学	学部/院
スウェーデン	ルレオー工科大学	院(M)

国・地域	協定校	対象
スウェーデン	リンシェーピング大学理工学部 ※情報理工と担当	学部/院
スウェーデン	スウェーデン王立工科大学 [GME]	学部/院
スイス	スイス連邦工科大学ロザンヌ(EPFL)	学部/院
EU	ミュンヘン工科大学、パリ・ラヴィレット建築大学、リスボン大学、ルーバン大学、ソフィア建築・土木・測地学大学[AUSMIP] ※新領域と担当	学部/院(M)
人文社会系研究科・文学部		
中国	山東大学儒学高等研究院・韓国研究中心	学部/院
中国	北京大学歴史学系 ※総合文化と担当	院
中国	北京大学中国語文学系 ※総合文化と担当	院
中国	北京大学哲学宗教学系 ※総合文化と担当	院
香港	香港中文大学文学院	学部/院
インド	デリー大学	院
韓国	ソウル大学校人文大学	院
イラン	テヘラン大学	院
フランス	エコール・ノルマル・スーペリユール	院
フランス	エコール・ノルマル・スーペリユール(リヨン校)	院
フランス	パリ第7・デイドロ大学 ※総合文化、数理科学と担当	学部/院
フランス	パリ第8大学 ※総合文化と担当	学部/院
ドイツ	ベルリン自由大学(歴史文化学部、他) ※総合文化と担当	学部/院
イタリア	ヒザ高等師範学校	院
英国	セインズベリー日本藝術研究所	学部
理学系研究科・理学部		
韓国	ソウル大学校自然科学大学院	院
チリ	マガジャネス大学	学部/院
アメリカ	カリフォルニア大学	学部
ベルギー	ゲント大学理学部	学部/院
チェコ	南ボヘミア大学水産・水系保護研究院	学部/院
フランス	パリ南大学	学部/院
ドイツ	アーヘン工科大学数学、コンピューターサイエンス及び自然科学部・建築学部・土木学部・機械工学部・資源及びマテリアル工学部・電気及び情報学部 ※工学系と担当	学部/院
ドイツ	ウルム大学 ※工学系、情報理工と担当	学部/院
ドイツ	ハイデルベルク大学バイオサイエンス学部/ハイデルベルクバイオサイエンス国際大学院	学部/院
ドイツ	ライプニッツ大学ハノーバー 自然科学研究科	学部/院
イタリア	フェラーラ大学物理学・地球科学部	学部/院
イタリア	ペルージャ大学物理学・地質学	学部/院
ロシア	サンクトペテルブルク国立大学	学部/院
ロシア	ロモノソフ記念モスクワ国立大学	学部/院
スウェーデン	ルレオー工科大学 コンピュータ科学・電子・宇宙工学部	学部/院
農学生命科学研究科・農学部		
台湾	国立台湾海洋大学	学部/院
台湾	国立中興大学獣医学院	学部/院
台湾	台北医学大学公共衛生栄養学部	学部/院
台湾	国立屏東大学獣医学院	学部/院
台湾	台湾大学生物資源農学院	学部/院
中国	四川農業大学	学部/院
中国	中国農業大学	学部/院
中国	東北林業大学	院
中国	南京農業大学	学部/院
中国	南京林業大学	院
中国	北京林業大学	学部/院
中国	西南大学	学部/院
中国	中国科学院大学資源環境学院	学部/院

国・地域	協定校	対象
中国	東北師範大学地理科学学院	学部/院
中国	海南大学熱帯農林学院	学部/院
中国	浙江農林大学	学部/院
中国	浙江工業大学生物工程学院	学部/院
中国	福建農林大学	学部/院
中国	河南科技大学	学部/院
インド	タミルナドゥ農業大学	学部/院
インドネシア	ボゴール農科大学	学部/院
インドネシア	ムラワルマン大学	学部/院
インドネシア	ランバン大学農学部	学部/院
韓国	ソウル大学校農業生命科学大学院	学部/院
韓国	ソウル大学校獣医科学大学院	学部/院
韓国	釜慶大学校水産科学大学院	学部/院
韓国	釜慶大学校環境海洋大学院	学部/院
韓国	建国大学校獣医学部	学部/院
マレーシア	マレーシア・サバ大学	学部/院
モンゴル	モンゴル生命科学大学院(旧:モンゴル農業大学)	学部/院
モンゴル	モンゴル国立大学	学部/院
フィリピン	セントラル・ルソン州立大学	学部/院
スリランカ	ルフナ大学	学部/院
タイ	カセサート大学獣医学部・農学部・林学部	学部/院
タイ	コンケン大学農学部	学部/院
タイ	チェンマイ大学	学部/院
タイ	チュラロンコン大学	学部/院
ベトナム	ベトナム国立農業大学	学部/院
ベトナム	カントー大学	学部/院
フィンランド	アールト大学(旧:ヘルシンキ工科大学)	院
フランス	アグロパリテク(旧:パリーグリニオン国立農学院)	院
ドイツ	カールスルーエ工科大学	学部/院
ドイツ	ボン大学開発研究センター	院
イタリア	マルケ工科大学	学部/院
ポーランド	クラクフ農科大学	学部/院
スウェーデン	スウェーデン農科大学	学部/院
経済学研究科・経済学部		
アメリカ	ブランダイス大学	学部
フランス	HEC経営学院(HEC Paris)	学部/院
ドイツ	デュースブルク・エッセン大学	院
ドイツ	フランクフルト大学	学部/院
スウェーデン	ストックホルムスクール・オブ・エコノミクス(SSE)	学部/院
英国	ロンドン・スクール・オブ・エコノミクス・アンド・ポリティカル・サイエンス(LSE)	院(D)
総合文化研究科・教養学部		
台湾	国立政治大学歴史学系	院
台湾	国立政治大学台湾史研究科	院
台湾	国立交通大学社会文化研究所	院
中国	華東師範大学思勉人文高等研究院	院
中国	中山大学国際関係学院	院
中国	北京大学歴史学系 ※人文社会系と担当	院
中国	北京大学元培学院(PKU-UTokyoキャンパスアジアプロジェクト)	学部
中国	北京大学中国語文学系 ※人文社会系と担当	院
中国	北京大学哲学系宗教学系 ※人文社会系と担当	院
中国	北京大学元培学院(東アジア藝文書院(EAA)「東アジア教養学」プログラム)	学部
韓国	ソウル大学校自由専攻学部(SNU-UTokyoキャンパスアジアプロジェクト)	学部

国・地域	協定校	対象
韓国	韓国外国語大学東洋語学・日本語学	学部/院
シンガポール	シンガポール国立大学理学部・人文社会科学部	学部
ベトナム	ベトナム国家大学ハノイ校附属人文社会科学大学	学部/院
ベトナム	ベトナム国家大学ハノイ校附属日越大学	院
アメリカ	ニューヨーク大学大学院総合文化研究科	院
カザフスタン	アルファラバカザフ国立大学東洋学部	学部/院
フランス	パリ第7・ディドロ大学 ※人文社会系、数理科学と担当	学部/院
フランス	パリ第8大学 ※人文社会系と担当	学部/院
ドイツ	ベルリン・フンボルト大学	学部/院
ドイツ	マルティン・ルター・ハレ・ヴィッテンベルク大学第一哲学部	学部/院
ドイツ	ベルリン自由大学(歴史文化学部、他) ※人文社会系と担当	学部/院
ドイツ	ユストゥス・リービヒ大学ギーン社会科学・文化学研究科、メディア論研究センター	学部/院
ドイツ	ハンリッヒ・ハイネ大学デュッセルドルフ人文学部	学部/院
ドイツ	トリア大学第二学部、第三学部	学部/院
イタリア	トレント大学統合生物学センター	学部/院
ロシア	ロシア国立人文大学	学部/院
スペイン	セビリア大学哲学部	学部/院
教育学研究科・教育学部		
スウェーデン	ストックホルム大学教育学部	学部/院
薬学系研究科・薬学部		
中国	瀋陽薬科大学	院
アメリカ	テキサス大学M.D.アンダーソンがんセンター	院
ドイツ	ボン大学リサーチ・トレーニンググループ1873	院
スウェーデン	イェテボリ大学S.A.アカデミー	院
数理学研究科		
フランス	エコール・ノルマル・スーペリールリオン数学科	院
フランス	パリ第7・ディドロ大学 ※人文社会系、総合文化と担当	院
ロシア	国立研究大学高等経済学院(HSE)	院
新領域創成科学研究科		
中国	同済大学院 ※工学系と担当	院
韓国	韓国科学技術院(KAIST)工学研究科	院
シンガポール・中国	シンガポール国立大学設計・環境学部 同済大学 建築・都市計画学院 清華大学 建築学院 ※工学系と担当	院(M)
タイ	カセサート大学理学部	院
ブラジル	カンピナス大学機械工学部	院
ブラジル	ペルナンブコ連邦大学	院
ブラジル	リオデジャネイロ連邦大学	院
ブラジル	サンタカタリーナ連邦大学	院
ブラジル	パラナ連邦工科大学	院
コロンビア	エアフィット大学	院
ケニア	ナイロビ大学	院
オーストラリア	ロイヤルメルボルン工科大学	院
オーストリア	ウィーン工科大学	院
フランス	フランス国立応用科学院リヨン校(INSA Lyon)	院
フランス	エコール・ノルマル・スーペリールリオン	院
フランス	エコール・セントラル・ドゥ・ナント校	院
フランス	ジャンモネ大学	院
フランス	クロード・ベルナル・リオン第一大学	院
フランス	フランス国立パリ建築大学ヴァル・ド・セヌア校	院
フランス	フランス国立パリ建築大学ラビエット校	院
英国	インペリアルカレッジロンドン工学研究科化学工学専攻	院

国・地域	協定校	対象
ノルウェー	スタヴァンゲル大学ビジネススクール	院
EU	ミュンヘン工科大学、パリ・ラヴィレット建築大学、リスボン大学、ルーバン大学、ソフィア建築・土木・測地学大学[AUSMIP] ※工学系と担当	院(M)
その他	国連大学サステイナビリティ高等研究所(UNU-IAS)	院
情報理工学系研究科		
インド	インド工科大学マドラス校 ※工学系と担当	院
インド	インド工科大学ハイデラバード校 ※工学系と担当	院
インド	インド工科大学カンパール校 ※工学系と担当	院
インド	インド工科大学デリー校 ※工学系と担当	院
インド	インド工科大学ボンベイ校 ※工学系と担当	院
インド	インド経営大学院バンガロール校 ※工学系と担当	院
タイ	チュラロンコン大学工学部、理学部	院
オーストリア	ウィーン工科大学(VUT)	院
デンマーク	デンマーク工科大学(DTU)	院
フィンランド	アールト大学(旧:ヘルシンキ工科大学)	院
フランス	エコール・スーペリール EA(ESIEA)	院
フランス	セントラルスープレック(旧:エコール・セントラル・パリ)	院
フランス	IMT Atlantique(旧:エコール・デ・ミンド・ナント)	院
フランス	パリ・サクレ高等師範学校(旧カジャン高等師範学校)	院
フランス	フランス国立応用科学院リヨン校(INSA Lyon)	院
ドイツ	ミュンヘン工科大学(TUM)	院
ドイツ	ダルムシュタット工科大学(TUD)	院
ドイツ	ウルム大学 ※工学系、理学系と担当	院
イタリア	トリノ工科大学 ※工学系と担当	院
ノルウェー	ノルウェー工科大学(NTNU)	院
スウェーデン	リンシェーピング大学理工学部 ※工学系と担当	院
情報学環・学際情報学府		
韓国	ソウル大学校社会科学大学言論情報学	院
公共政策学連携研究部・教育部		
中国	北京大学 国際関係学院(PKU-SIS)	院
韓国	ソウル大学校 国際大学院(SNU-GSIS)	院
シンガポール	シンガポール国立大学リー・クワンユー公共政策大学院(LKY-SPP)	院
ブラジル	ジェトゥリオヴァルガスビジネススクール(FGV)	院
アメリカ	コロンビア大学国際公共政策大学院(SIPA)	院
アメリカ	カリフォルニア大学サンディエゴ校(UCSD)グローバル政策&ストラテジー研究大学院(GPS)	院
アメリカ	カリフォルニア大学ロサンゼルス校(UCLA)ラスキン公共政策大学院公共政策学科	院
オーストラリア	オーストラリア国立大学(ANU)クロフォード公共政策大学院	院
デンマーク	コペンハーゲン大学社会科学部研究科	院(D)
フランス	パリ政治学院(Sciences Po.)	院
フランス	HEC経営学院(HEC Paris)	院
ドイツ	ヘルティエ・スクール(Hertie School)	院
ドイツ	ハイデルベルク大学 The Graduate Programme for Transcultural Studies (GPTS)	院
英国	ロンドン・スクール・オブ・エコノミクス・アンド・ポリティカル・サイエンス(LSE)	院
英国	ロンドン大学キングスカレッジ社会科学公共政策研究科	院(D)
その他	国連大学サステイナビリティ高等研究所(UNU-IAS)	院

※2020年2月1日現在、交換留学を実施するため、東京大学が学生交流覚書を締結している協定校を掲載しています。覚書の更新や取扱いの検討等により調整につき掲載されていない協定校があること、掲載されていても当該年度に交換留学を実施しない場合もあることに注意してください。
※担当学部・研究科ごとに取扱いが異なるため、詳細は担当学部・研究科に確認してください。

②各学部・研究科によるプログラム

工学部短期学生海外派遣プログラム(工学部)



2019年度に新規に開設された、春季休業期間を利用して英語圏の大学に4週間程度留学するプログラムです。工学部3年生、工学部に進学が内定している教養学部前期課程2年生、及び工学部の推薦入試による入学者で教養学部前期課程1・2年に在籍している学生を対象とします。留学先では英語学習を軸としながら、工学に関する英語による授業の受講、現地講師によるレクチャー、文化交流等を通じて、英語能力及び国際総合力の向上を目指します。今後、夏季休業中にも同様のプログラムの実施が計画されています。

対象学生:工学部3年生、工学部進学予定の教養学部前期課程2年生等
実施期間:春季休業期間
応募方法:募集要項に従って期日までに応募書類を提出する
お問い合わせ先:工学系・情報理工学系等事務部国際推進課国際交流チーム
outbound.t@gs.mail.u-tokyo.ac.jp

文学部特別プログラム(人文社会系研究科・文学部)



文学部では、2014年1月に英国・セインズベリー日本藝術研究所との間で部局間学術交流協定を結び、学部教育の総合的改革の一環として、特別プログラムを実施しています。イギリスで行われるプログラムでは、セインズベリー研究所がホストとなり、東京大学の学部学生5名と英国を始めとする欧州等の学生5名とで、ロンドンとセインズベリー研究所が所在するノーフォーク州を訪れ、英語を使用言語としながら、座学、博物館・美術館見学、グループ・ワーク等を通して、考古学・美術史学・文化資源学等を学んでいます。反対に日本で行われるプログラムでは、文学部がホストとなり、東京大学本郷キャンパスと本研究科附属北海文化研究常呂実習施設にて同様の学習と交流プログラムを実施しています(例年9月に実施)。本プログラムの概要や実施内容、参加学生のレポートは、下記のURLに掲載されている報告書で読むことができます。興味のある方は、是非ご参加ください。

対象学生:学部前期課程及び後期課程に在学する学生(専攻分野問わず)

実施期間:2月を予定(イギリスでのプログラム)
応募方法:応募書類提出、書類審査により選考
URL:http://www.l.u-tokyo.ac.jp/program/special.html
お問い合わせ先:人文社会系研究科・文学部事務部教務係
kyoumu@l.u-tokyo.ac.jp

詳細はこちら



海外武者修行(工学系研究科・工学部)



工学系研究科・工学部では、学生が海外の大学・研究機関を訪問するための渡航費支援の取り組みとして、「海外武者修行」を実施しています。参加学生は、自分で海外の著名な研究室への訪問をアレンジし、自身の研究成果について発表を行います。各分野の一流の専門家からレビューを受けることにより、当該分野の国際コミュニティにおける自身の研究の立ち位置を確認し、研究へのモチベーションを高めると同時に、国際共同研究のきっかけを掴むことが期待されています。

これまでオックスフォード大学やマサチューセッツ工科大学をはじめとする世界各国の大学・研究機関の研究室への派遣実績があり、参加学生にとっては、海外の研究現場を肌で感じることで、今後の研究やキャリアについても考えを深めることができる貴重な機会となっています。

海外武者修行へチャレンジしたい方は、工学系研究科・工学部学生用情報ポータルサイトの通知を参照してください。

対象学生:工学系研究科・工学部の学生(詳細は募集要項を参照)
実施期間:7~翌年3月中旬のうち最大4週間(応募者自身がアレンジ)
応募方法:募集要項に従って期日までに応募書類を提出する
お問い合わせ先:工学系・情報理工学系等事務部国際推進課国際交流チーム
outbound.t@gs.mail.u-tokyo.ac.jp

理学部学生国際派遣プログラム(SVAP)(理学部)



本プログラムでは、選抜された理学部学生を研究実習(インターンシップ)や短期講座受講(サマースクール等)のため海外の大学や研究機関に派遣しています。学生は興味のある分野の研究を行っている海外の教員や研究者に自力でコンタクトを取り、インターンシップの受入許可を得るか、参加したい海外プログラムを見つけ応募等の必要な手続きを行った上でSVAPに応募します。書類審査と英語による面接を経て採択されたSVAP派遣生は、自分で渡航計画を立て、理学部の経済支援のもと海外での研究や講座受講を体験します。これまでの派遣生は、アメリカやヨーロッパ、アジアの様々な大学や研究機関へ渡航し、充実した研究や学修の体験を得て帰国しました。その様子の一部は以下で読むことができます:
<https://www.facebook.com/UTokyo.SVAP/>
ハードルの高いプログラムですが、その分、プログラムへの参加を経て大きく成長することができます。また、自分で行き先も期間も決められる自由度の高さも好評です。

対象学生:理学部学生ならびに理学部に内定している推薦入試入学者
実施期間:5~翌年3月の間の2週間~3ヶ月間(応募者自身が決定)
応募方法:応募書類提出
(派遣の前年度の1月下旬または2月上旬締切)
URL:https://www.s.u-tokyo.ac.jp/ja/offices/ilo/svap/application.html
お問い合わせ先:理学部国際化推進室
ilo.s@gs.mail.u-tokyo.ac.jp

詳細はこちら



国際交流促進プログラム(農学生命科学研究科)



本プログラムは、留学を通じて広く国際的な経験と知識を身につけ、より深く、かつ幅広い研究活動を目指すことに資することを目的とし、海外の大学、研究所・研究機関等への留学を奨学金の支給により支援します。本プログラムにより、多様な専門分野の研究に若い時期に参画し、海外における最先端の研究手法や当該分野での人脈の取得、国際的な人的ネットワークの形成を得られることが期待され、また、併せて英語でのコミュニケーション能力の向上も期待されます。

本プログラムの特色は、1.自らの自由な発想で留学を組み立てられる 2.比較的自由度の高いプログラムである 3.主に海外留学を経験したことの無い者を優先する となっています。本プログラムに興味のある方は、2020年4月に「国際交流促進プログラム報告会」を開催いたしますので、是非ご参加ください。詳細については、本研究科のウェブサイト参照してください。

対象学生:農学生命科学研究科に在学する大学院学生
実施期間:2020年7月~2022年3月末を予定
応募方法:書類審査
URL:https://www.a.u-tokyo.ac.jp/
お問い合わせ先:農学系教務課学生支援チーム(学生生活担当)



東京大学リベラルアーツ・プログラム(総合文化研究科・教養学部)



リベラルアーツ・プログラム(LAP)は、教養教育を海外へ発信し、学生交流を通じてグローバルな視野と総合的判断力を備えた人材の育成を目指す教育交流プログラムです。中国の南京大学と連携し、(1)毎年3月に学部1年生から院生までの混合チームを派遣してフィールドワークとグループ討論を行います(1週間派遣)。(2)毎年8月に南京大学で中国語の特訓サマースクールを実施し、中国語履修の学部2年生を派遣します(3週間派遣)。(3)毎年11月に南京大学の学生を駒場に招き、東京大学一週間体験プログラムを実施。東大生とともにフィールドワークとグループ討論を行います(1週間)。さらに、(4)学部3年生以上を対象に、中国語上級サマースクール「深思北京」を、中国人民大学と連携して、秋に開講いたします(1週間派遣)。詳しい紹介と参加者の体験談はLAPのウェブサイトをご覧ください。意欲的な学生の参加を期待します。

対象学生:主に学部学生が対象だが大学院学生も参加可
専攻・学年の別は問わない
実施期間:上記参照
応募方法:レポート審査もしくは面接
URL:http://www.lap.c.u-tokyo.ac.jp/
お問い合わせ先:総合文化研究科・教養学部附属教養教育高度化機構国際連携部門



ユネスコ・バンコク事務所インターンシッププログラム(教育学研究科)



教育学研究科と国連教育科学文化機関(ユネスコ)バンコク事務所・アジア太平洋地域教育局(以下、ユネスコ・バンコク事務所)の協定に基づき、教育学研究科に所属する学生をユネスコ・バンコク事務所に数ヶ月間インターンとして派遣するプログラムです。学生はインターンとして、国際的な教育に関する諸領域(政策、実践、調査研究等)においてユネスコが有する豊富な知見に触れ、理解を深め、ユネスコ・バンコク事務所が展開する事業の業務補助を行います。学生の国際感覚を鍛える実践的なプログラムとなっており、教育や教育分野における自らのキャリアについて、国際的な視点から考える機会となることを見込まれます。具体的な時期・期間・受入部署は、教育学研究科から学生の推薦を受けてユネスコ・バンコク事務所が決定します。本プログラムの詳細は、教育学研究科学生支援チームのウェブサイト(学内限定)を参照してください。

対象学生:教育学研究科に在学する大学院学生
実施期間:4~6ヶ月間(受入部署との協議により決定)
応募方法:書類・面接審査により選考
お問い合わせ先:教育学研究科国際交流室・学生支援チーム

海外大学院とのダブル・ディグリー・プログラム(公共政策学教育部)



公共政策学教育部(GraSPP)は、東京大学の大学院の中で最も留学生比率の高い大学院であり、学生数の約半分を留学生が占めています。またGraSPPには、充実した留学プログラムがあり、現在、16大学と交換留学やダブル・ディグリー・プログラム(DD)を行っています。ダブル・ディグリー・プログラムとは、東京大学で1年、海外の協定校で1年学ぶことによって最短2年で2つの大学からそれぞれ学位を取得することができるプログラムです。DDが出来る協定校は、コロンビア大学(ニューヨーク)、パリ政治学院(パリ)、シンガポール国立大学(シンガポール)、ヘルティ・スクール(ベルリン)、ロンドン・スクール・オブ・エコノミクス・アンド・ポリティカル・サイエンス(ロンドン)、ソウル大学校(ソウル)、北京大学(北京)、オーストラリア国立大学(キャンベラ)の8校です。詳細についてはGraSPPのウェブサイト参照してください。

対象学生:公共政策学教育部の専門職学位課程学生
実施期間:交換留学は1クォーターから1年、ダブル・ディグリーは1年
応募方法:プログラムの募集要項に従って、期日までに指定の書類を提出する
URL:http://www.pp.u-tokyo.ac.jp/international-exchange/
お問い合わせ先:公共政策学教育部国際交流担当
exchange@pp.u-tokyo.ac.jp,
campusasia@pp.u-tokyo.ac.jp



II 留学・国際交流関連情報

- 1. 情報収集方法 p36-37
- 2. 留学にかかる費用と奨学金 p38-41
 - 1) 費用と奨学金例 p38-39
 - 2) 支援者からのメッセージ p40-41
- 3. 留学における学籍・単位認定 p42-43
- 4. 語学能力検定試験 p44
- 5. 安全と危機管理 p45
- 6. 留学と就職活動 p46
- 7. 卒業後の大学院留学 p47
- 8. よくある質問 p48-49

1. 情報収集方法

有意義な留学・国際交流の成否はどれだけ情報収集を行ったかで左右されると言っても過言ではありません。以下のようなツールを活用して、主体的に情報を集めましょう。

各学部・研究科の情報

各学部・研究科独自の留学・国際交流プログラムについては、各学部・研究科のポータルサイトや掲示板、窓口等で情報が得られます。また、留学の際の東京大学での学務上の注意点(留学中の授業履修・単位・学籍など)も各学部・研究科によって異なるので、必ず申請前に担当部署へ確認するようにしましょう。

<https://www.u-tokyo.ac.jp/adm/go-global/ja/contact-department.html>

各学部・研究科の連絡先一覧にアクセス



東京大学全体・グローバルキャンパス推進本部のプログラムの情報

①Go Global ウェブサイト

留学プログラムだけでなく、奨学金や安全管理などについて本ガイドブックよりさらに詳細な情報や最新情報が掲載されています。また、過去にグローバルキャンパス推進本部のプログラムに参加した学生の体験記も読むことができます。経験者の生の声を参考にしましょう。

<https://www.u-tokyo.ac.jp/adm/go-global/ja/>

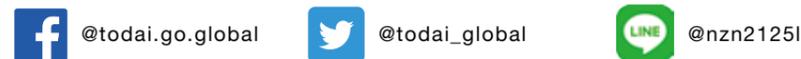
Go Global ウェブサイトにアクセス



トップページの「NEWS」では、最新のプログラム募集情報、イベント情報などを確認できます。

②Go Global公式SNSアカウント

グローバルキャンパス推進本部からの直接の発信で、留学プログラムや奨学金関連の最新情報をお知らせします。以下のアカウントをフォローすれば、有益な情報をリアルタイムで得ることができます。



SNSアカウントをフォロー



③Facebookグループ「Todai Go Global Network」

東京大学の在学学生・教職員・卒業生が留学・国際交流に関する情報を交換できるFacebookの非公開グループです。参加にあたっては本学関係者であることの認証手続きが必要です。詳細はGo Global ウェブサイトを確認ください。

<https://www.u-tokyo.ac.jp/adm/go-global/ja/contact-search-fb.html>

グループに参加する



④留学・国際交流関連イベント

グローバルキャンパス推進本部では大規模な春の留学フェア、秋の留学説明会に加え、年に数回、小規模な留学プログラム・海外インターンシップなどの説明会を駒場キャンパス・本郷キャンパスにて開催しています。説明会は担当者やプログラム参加者の話を直接聞くことができるよい機会です。また、海外大学や各国大使館などが主催する留学関連イベントも開催されているので目的に応じて積極的に参加してみましょう。説明会・イベントの情報は①Go Global ウェブサイトや②Go Global 公式SNSアカウントなどで紹介しています。

<https://www.u-tokyo.ac.jp/adm/go-global/ja/top-events.html>

イベント情報を確認する



2019年4月に開催した留学フェアの様子。様々なプログラムの説明を受けたり、ブース出展団体との個別相談、プログラム参加者との交流ができたりする、貴重な機会です。

⑤Go Globalセンター内 留学生・留学情報サポートデスク

Go Globalセンターでは、留学に関する書籍や資料などを閲覧できます。また留学生・留学情報サポートデスクで、海外留学に関する一般的な問い合わせ・質問に対応します。サポートデスクの開設時間等は、ウェブサイト上のカレンダーでご確認ください。

場所: 本郷キャンパス理学部1号館東棟1階Go Globalセンター内

<https://www.u-tokyo.ac.jp/adm/go-global/ja/contact-icenter.html>

開室時間を確認する



アドバイザーから一言

海外留学に興味がある、何から始めたらいいのか分からない、海外留学をしようか迷っている等、お気軽に話しにきてください。海外留学に関する情報提供・相談を行っています。

海外には数多くの東大同窓会があります!

東京大学卒業生のネットワークは近年急速に拡がっており、海外には、35ヶ国・地域に56の同窓会が組織されています。海外における体験活動プログラムや、サマー・ウィンタープログラムの多くは同窓会の全面的な協力で実施されているなど、在学生に向けて様々なサポートを提供してくれています。留学後の生活に関するアドバイスや、地元イベント、交流の場の紹介など、心強いサポーターとなってくれる先輩たちがたくさんいます。世界で活躍している卒業生とのネットワークをぜひ活用してください。

海外同窓会の一覧と各同窓会のコンタクト先はこちら

https://www.u-tokyo.ac.jp/en/alumni/alumni_association.html

ご質問などは卒業生部門にお問い合わせください。
東京大学卒業生部門 e-mail: tft.adm@gs.mail.u-tokyo.ac.jp



2016年 NY銀杏会のサポートで行われた体験活動「ニューイングランド有機農場でのCommunity Supported Agriculture体験(米国)」

2. 留学にかかる費用と奨学金

1) 費用と奨学金例

① 費用一般について

長期留学の場合、国・地域や期間によりますが、一般的におよそ200～300万円以上(1年間)の学費・生活費などががかかります。留学しない場合も必要となる日本での学費・生活費も考慮して検討してみましょう。全学交換留学や学部・研究科間交換留学などの場合には、原則として留学先に授業料を納める必要はなく、東京大学に東京大学の授業料を納めることになります。また、交換留学以外でも、東京大学を通じて申し込むプログラムでは、プログラムの実施機関から東京大学の学生向けの費用の割引・免除・参加補助などが受けられる場合があります。



いかがでしょうか?この例以外にも、留学体験記(p9-11参照)やGo Global ウェブサイト(p36参照)に掲載されている、留学経験者の報告書にも留学に要した費用について記載があります。留学計画の参考にしてください。

② 海外留学等奨学金について

● 奨学金の種類(期間・目的・応募方法)

まず、留学・海外活動の期間によって、概ね3ヶ月以上、3ヶ月未満で奨学金支給の対象が分かれています。さらに奨学金によっては交換留学、学位取得、その他(インターンシップ、ボランティア等)などその種類や目的を限定している場合がありますので注意しましょう。また、東京大学独自の奨学金だけでなく、外部団体が公募する奨学金にも応募が可能です。外部団体の奨学金には、東京大学を通じて応募するもの(大学公募型)と、個人で外部団体へ直接応募するもの(個人応募型)があります。給付奨学金のほか、貸与奨学金もあります。

● 奨学金の探し方

東京大学及び外部団体からの主な奨学金の公募情報は、Go Global ウェブサイト(p36参照)上で随時更新しています。期間・種類別に一覧で掲載していますので自分の留学・海外活動の内容と照らし合わせて探してみましょう。奨学金の応募締切は留学開始の半年以上前に設定されていることがほとんどです。留学や海外活動を考え始めたら、早めに奨学金についても情報収集すると良いでしょう。また、「他奨学金との併給を認めない」とする奨学金もあるので、併願する際は十分注意してください。

● 東京大学を通じて応募するプログラムに参加する場合

交換留学や3ヶ月未満の留学プログラムなど、東京大学を通じて申し込むプログラムに参加する学生には、東京大学・その他支援団体などからの奨学金を支給する可能性があります。奨学金支給の有無や金額は、奨学金支給団体が定める条件(成績・家計基準等)や参加費用、使用可能な財源等を勘案の上、決定されます。グローバルキャンパス推進本部が実施する全学交換留学、UC派遣プログラム、一部の全学短期派遣プログラムについては、要件を満たす学生は学内選考時に奨学金の申請ができるため、海外有力大学の各種プログラムへ東京大学からの奨学金を得て参加することが可能です。

● 学位取得のため留学する場合

学位を取得するために留学する場合は、日本学生支援機構(JASSO)海外留学支援制度(大学院学位取得型)ほか様々な外部団体が公募している奨学金があります。

③ 主な海外留学等奨学金一覧

大学公募型(東京大学による推薦や取りまとめが必要なもの)と個人応募型(個人で直接応募するもの)があります。

- 大学公募型では、奨学金申込書を所属学部・研究科の窓口へ提出してください。提出書類や提出締切については所属学部・研究科窓口を確認してください。
- 個人応募型では、東京大学を bypass して個人で直接応募することとなります。

1) 3ヶ月以上の留学が対象の奨学金

奨学金・プログラム名	支援期間	金額・対象	申請先
*1 東京大学 海外派遣奨学事業 短期(3ヶ月以上1年以内) 海外留学等奨学金	3ヶ月～1年以内	月額6～10万円	所属学部・研究科
*2 官民協働海外留学支援制度～トビタテ!留学JAPAN日本代表プログラム～	1ヶ月～1年	月額12～16万円、留学準備金15～25万円、学費等	所属学部・研究科
(公財)KDDI財団日本人留学生助成プログラム	1～2年	月額20万円	所属学部・研究科
(公財)経団連国際教育交流財団 産業界リーダー人材育成奨学金奨学生	2年または1年	学費、生活費等として年間450万円を一律支給	所属学部・研究科
(公財)経団連国際教育交流財団 日本人大学院生奨学金	2年または1年	学費、生活費等として年間350万円を一律支給	所属学部・研究科
(公財)佐藤陽国際奨学財団 派遣留学奨学生	6ヶ月～1年	月額8万円、渡航費25万円、交換留学一時金10万円	所属学部・研究科
(公財)業務スーパージャパンドリーム財団 派遣留学奨学生	1年以内	月額15万円	所属学部・研究科
TOMODACHI 住友商事奨学金プログラム	1年	180万円	所属学部・研究科
百賢アジア研究院 AFLSP日本人学生交換留学奨学金	1年	年額12,500米ドル(中国・香港の指定大学への留学)	所属学部・研究科
東京大学トヨタ高度人工知能人材育成のための海外留学奨学金	1年(場合により延長可)	月額22万円、授業料支援上限あり、人工知能分野での学修又は研究	所属学部・研究科
(公財)日揮・実吉奨学海外留学奨学金	1セメスター以上1年以内	生活滞在費月額15万円、渡航費20万円、理工系(自然科学分野専攻)学生	所属学部・研究科
(公財)トラスト未来フォーラム 海外留学支援奨学金	5ヶ月～1年以内	月額10万円、法学部に在籍している学生	所属学部・研究科
*3 (独)日本学生支援機構 海外留学支援制度(大学院学位取得型)「大学とりまとめ応募」	修士2年以内 博士原則3年以内	月額8.9～14.8万円、授業料(年額上限250万円)	所属学部・研究科
*3 (公財)吉田育英会 日本人派遣留学プログラム	2年以内(審査の上、1年以内の延長あり)	学校納付金合計250万円以内、生活滞在費月額20万円、扶養補助(該当者のみ)、往復渡航費	所属学部・研究科
*3 (公財)竹中育英会 海外留学奨学生	修士2年、博士3年 修士・博士合わせて原則5年以内	大学納付金250万円以内、滞在費・渡航費等年額200万円以内	所属学部・研究科
(公財)阪和育英会 海外留学奨学生	原則1年以内(条件により6ヶ月以上2年以内)	月額7万円、留学渡航準備金15万円、学部学生	所属学部・研究科
(一財)アジア国際交流奨学財団 川口静記念 奨学生	1年	月額4万円	所属学部・研究科
(公財)国際協和奨学会 日本人海外留学奨学生	2年以内	月額12万円、海外の大学の正規課程に進学希望する学生	所属学部・研究科
(公財)平和中島財団 日本人留学生奨学生	2年以内	月額20万円、往復渡航費	直接応募
Friends of UTokyo, Inc. 米国伊藤財団-FUTI奨学金	1学期以上2年以内	学費、滞在費等、実情に合わせて幅広く支給	直接応募
日米教育委員会フルブライト奨学生	詳細はウェブサイトを確認	大学院留学プログラム、大学院博士論文研究プログラム、研究員プログラム、ジャーナリストプログラム、フルブライト語学アシスタント(FLTA)プログラムの5種	直接応募
(公財)松下幸之助記念志財団 松下幸之助国際スカラシップ	9ヶ月～1年	アジア、アフリカ、ラテンアメリカ諸国の大学・大学院及び政府研究機関に所属しての調査研究する者	直接応募
*3 船井情報科学振興財団 Funai Overseas Scholarship	原則2年間	情報科学、情報技術分野、経済、経営分野等で、Ph.D.取得を目指す学生	直接応募
*3 (公財)中島記念国際交流財団 日本人海外留学奨学生	修士課程:最長2年 博士課程:最長5年	月額20万円、支度金50万円(往路航空費含む)、復路航空券、授業料(留学当初の2年間、年間300万円以内)	直接応募
*3 (公財)伊藤国際教育交流財団 日本人奨学生	原則2年以内	生活費月額1,500～2,000米ドル、学費(年額300万円以内、往復旅費)	直接応募

注)上記給付奨学金の他、(独)日本学生支援機構が実施する貸与奨学金もあります。日本学生支援機構「海外留学の奨学金」<https://www.jasso.go.jp/shogakuin/moshikomi/kaigai/index.html>

2) 3ヶ月未満の留学が対象の奨学金

奨学金・プログラム名	支援期間	金額・対象	申請先
*1 東京大学 海外派遣奨学事業 超短期(3ヶ月未満) 海外留学等奨学金	3ヶ月未満	月額6～10万円	所属学部・研究科
*2 官民協働海外留学支援制度～トビタテ!留学JAPAN日本代表プログラム～	1ヶ月～1年	月額12～16万円、留学準備金15～25万円、学費等	所属学部・研究科
Friends of UTokyo, Inc.米国の大学での夏季プログラムに参加する日本学生への奨学金	夏季の数週間	約3,000米ドル アメリカの大学での夏季プログラム等	直接応募

注)●この一覧は2020年2月1日現在の情報です。支援内容は変更になる場合があるので、最新情報はGo Global ウェブサイトを確認してください。●*1は東京大学独自の奨学金です。●*2は支援期間が1ヶ月～1年の奨学金のため、上記の3ヶ月以上と3ヶ月未満の両欄に掲載しています。●*3は学位取得目的に限定されている奨学金です。●諸外国の政府または政府関係団体による、その国・地域の大学などへ留学する日本人を対象にした奨学金制度については日本学生支援機構のウェブサイト参照してください。●上記は、主な奨学金の例を記載しています。他にも特定の地域に在居対象の奨学金等もあるので、Go Global ウェブサイトを確認してください。

2) 支援者からのメッセージ

“Go Global”にチャレンジする東大生に社会が期待しています!

グローバルに活躍する人材の輩出を目指し、学生の留学・海外活動を推進する東京大学の取組には、卒業生をはじめとする社会から広く賛同を頂いています。そうした方々からの貴重なご寄附による奨学金も増えています。ここでは、支援者からのメッセージとともに、寄附奨学金プロジェクトの先輩奨学生からの声も併せて紹介します。

ゼンショー 東京大学・南京リベラルアーツ・学生交流プログラム

支援者からのメッセージ

ゼンショー 東京大学・南京リベラルアーツ・学生交流プログラムは、株式会社ゼンショーホールディングスからのご寄附にもとづき、日本と中国との将来を担う人材を育成するため、東京大学が中国の大学と行う学生交流の教育プログラムです。中国を代表する大学のひとつである南京大学と連携し、リベラルアーツ教育を通して、双方の学生がともに考え、ともに啓発する中で信頼関係を育み、豊かな人間性を備えた知中派・知日派となることを目指します。本プログラムは①東大×南大共同フィールドワーク in 南京(3月)、②サマースクール in 南京(8月)、③東大×南大共同フィールドワーク in 東京(11月)、④上級中国語研修(深思北京)、から構成されています(p34参照)。

日中の未来を拓く知中派・知日派を

小川 賢太郎氏
株式会社ゼンショーホールディングス
代表取締役会長 兼 社長



今から400年前、世界人口は5億人余、その60%はアジアに住んでいました。GDPの重心もアジアにありました。ところが1600年、世界最初の株式会社といわれるイギリス東インド会社(EIC)の設立と、1602年のオランダ東インド会社(VOC)の設立を境に、世界構造が急激に変化していきます。アジアの富のヨーロッパへの移動、本格的蓄積が始まり、これがヨーロッパにおけるその後の技術革新、産業革命へとつながり世界はヨーロッパによる支配の時代へと移行します。1585年3万人であった、アムステルダムは1622年には3.5倍の10万5千人へと急増します。

今、世界の構造は400年ぶりの大転換期を迎えています。世界人口に占めるアジアの比率は再び60%を超え、GDPの重心も急速にアジアに移動しつつあります。

このような歴史の流れを見ると、アジア地域の安定的発展と世界全体の平和的発展のため、日中両国の果たすべき役割は大変大きいのではないのでしょうか。そしてそれを具現化していくには、両国において幅広い知識をもとに物事を大局的・総合的に見て、判断し、行動する人材が不可欠であります。

南京大学におけるリベラルアーツのプログラムは東京大学の全面的な支援のもと、両国の歴史・文化・技術について深い理解を持った人材の育成を長期的視点で進めており、株式会社ゼンショーホールディングスも物心両面における全面的な支援をさせていただいております。

このプログラムが、日中両国について深い理解を持つ高度人材を継続的に育て、日本と中国、そしてアジアと世界の安定的発展に資することを期待しております。

参加学生からの声



岩永 淳志
教養学部文科二類1年(当時)

「ゼンショー 東京大学・南京リベラルアーツ・学生交流プログラム」のうち、南京大学フィールドワーク研修に参加させていただきました。研修からもうすぐ2年が過ぎようとしています。当時を振り返ると、この研修は私にとって大きなターニングポイントでした。今、私は大学から離れて和歌山の田舎で田舎暮らしをしているのですが、そのきっかけになったのが「実際にその場に、一人の人間として入り込むことでしか見えないものがある」という確信をこの研修を通して得たからです。南京郊外の古びてボロボロの家々が連なるエリアを私たちのチームは散策しました。実際にそのエリアを歩き回り、とある家庭にお邪魔して生活を共にすると、「貧しい」「衛生的じゃない」「可哀想」そんな言葉は出てこなくなりました。僅かな時間の中で一瞬でもその地域に住む人と同じ生活をして見えてきたのは、大学で勉強していてもわからない、全く別の視点、価値観でした。研修時に調査した家庭は今でもたまに会いに行きます。ここまで深い繋がりを海外の一地域で持てる。その点、この研修は他の観光旅行、研修、語学留学とは一線を画しています。このような機会を用意して下さった株式会社ゼンショーホールディングスのご支援、そして東大教員の企画のもとでこのようなフィールドワークができたことに改めて感謝します。今後も、この研修で得られたことを糧にフィールドワーカーであり続けたいと思います。

Go Global奨学金基金「Fung Scholarships」支援者からのメッセージ

東京大学グローバル・アドバイザー・ボードのメンバーの一人であるVictor K. Fung氏が代表を務める香港のVictor and William Fung Foundationによる、学部学生の留学を支援することを目的としたFung Scholarshipsが2015年度よりスタートしました。Fung氏は、世界の有力大学に対して学生の留学奨学金を支援しており、その奨学生達Fung Scholarsは既に6,000名に達しています。日本では東大生が初めてその仲間入りしました。本奨学金プログラムでは、毎年20名程度の学部学生が、LLICプログラム(p16参照)や全学交換留学(p6-11参照)に参加し、Fung Scholarsとして香港大学や本学との協定校へ派遣されます。

Dr. Victor K. Fung
Chairman, Victor and William Fung Foundation Group Chairman, Fung Group



Fung Scholars Programme:

With the increasing trend of globalisation, graduates with international outlook and experience of diverse cultures and environments would be the human capital critical to the continuous progress of a society. It was with this conviction, the Fung Scholars Programme, set up by the Victor and William Fung Foundation based in Hong Kong, was established to support university students to experience learning, communicating and networking outside their own culture. The recipients of the Fung Scholarships are known as Fung Scholars and they are chosen on the basis of their academic excellence and leadership potential.

Since the launch of the Fung Scholars Programme in Bangladesh, Hong Kong, Japan, mainland China, Singapore, Turkey, UK and USA, there have been more than 6,000 scholarship recipients benefiting from the initiatives. To maintain and energise the network of Fung Scholars and Fung Fellows, the Foundation organises an annual Leadership Conference as well as other activities. City-based local chapters are established in Tokyo, Hong Kong, Singapore, China, New York, Boston and London to provide localised platforms for Fung Scholars in different cities on ideas exchange and give back to their communities.

More information of the Fung Scholarships: www.FungScholars.org.

"We hope the University of Tokyo Fung Scholars will benefit greatly from this programme, and with wider exposure and experience, share with other Fung Scholars and the community at large the experiences and insights he/she gained from his/her study and/or work experience. We hope through this platform, our Fung Scholars are able to expand their network with other Fung Scholars worldwide, and that they will be able to contribute much more to the community."



東京でもFung Scholarsの集いを開催し、奨学生間の交流を深めています。

詳細はこちら



<https://www.fungfoundation.org/>

東京大学では本ページで紹介したプロジェクトのほか、東京大学基金のもとに「Go Global奨学金基金」を立ち上げ、卒業生や企業へ支援のお願いをしています。本基金の趣旨にご賛同頂いた多くの方々から多大なご寄附を頂き、東大生の“Go Global”を支えて頂いています。

アメリカ留学の強い味方!“FUTI”(Friends of UTokyo, Inc.)の奨学金

FUTI(Friends of UTokyo, Inc.:東大友の会)は、東京大学の国際化を支援するために卒業生を中心に設立された、アメリカニューヨーク州登録のNPO団体です。ニューヨーク州立大学ストーニーブルック校の尾島巖特別教授(1968年理学部卒)が理事長を務め、卒業生や企業などの寄附のもとに奨学金給付や研究助成を行っています。FUTIの奨学金は、下記の2つの柱から成っています。

●FUTI奨学金(p39参照):

アメリカへ夏季に留学する学生を対象とする奨学金です。2019年度には8名がこの奨学金を受給し、アメリカの大学でのサマーコースや語学研修コースに参加しました。奨学生は、「ハイレベルな授業を受けつつ、短期間のうちに多様なバックグラウンドを持つ人々に出会えることがこのプログラムの魅力の一つ」「留学先で出会った人とのつながりに心強さを感じ、今後さらに新たなことに挑戦する勇気をもらった」といった感想を寄せています。

●米国伊藤財団-FUTI奨学金(p39参照):

アメリカへの1セメスター(2クォーター)以上の中長期留学を奨学金給付の対象とした奨学金です。この奨学金は、伊藤雅俊氏(株式会社セブン&アイホールディングス名誉会長)が前途有望な学生を支援するために設立した米国伊藤財団からの支援を受けて、2016年度にスタートしました。2019年度には9名がこの奨学金を受給し、将来を切り拓くための留学に挑戦しています。また、2018年度より、活発な課外活動の結果、学業・英語学習に時間制約があった方を歓迎する奨学金(IF育英奨学金)の給付も開始。2019年度は1名がこの奨学金を受給し、留学先で貴重な経験を積んでいます。

各奨学金の選考は、学業成績、エッセイ、推薦状などに基づいて行われますが、それに加えて、部活動、ボランティア活動など、大学の正課以外でもリーダーシップを発揮してきた東大生の応募を期待しています(詳細はFUTIのホームページのFAQを参照)。FUTIのネットワークは、奨学金の給付以外の面でも皆さんの留学生活のサポートになるでしょう。アメリカへの留学を考えている方は、ぜひ一度ホームページをご覧ください。



UC Berkeleyでのサマーセッションの様子
留学レポートはFUTIのホームページでご覧いただけます。

詳細はこちら



<http://www.todaitomonokai.org/>

3. 留学における学籍・単位認定

留学などのため海外へ渡航する場合には、所属する学部・研究科の担当部署に事前に相談してください。東京大学での学籍上の手続き(留学願、休学願、海外渡航届など)が必要な場合がほとんどです。学籍上の取扱いによって、授業料納入の有無や単位互換の可否が異なりますので注意してください。

[海外渡航の際の主な学籍上の手続き]

●「留学」：留学の手続きをとる

●「休学」：休学の手続きをとる

上記の手続きをとらず、海外渡航する場合は、海外渡航届などの手続きを行ってください(例:夏季休業期間を利用し、海外大学に語学留学する場合など)。

[海外の大学で修学する場合の、学籍上の「留学」と「休学」の違い]

「留学」の手続きによる場合と「休学」の手続きによる場合の違いは、右の表を参考にしてください。

※交換留学の場合は、「留学」又は「研究指導の委託」の手続きが必要です。
※留学先大学で取得した単位の本学における認定については、事前に留学時の所属学部・研究科の担当部署に相談してください。
※以下は一般的な情報です。学部・研究科により異なる場合があります。

	「留学」の手続きによる場合 (交換留学)	「留学」の手続きによる場合 (交換留学以外)	「休学」の手続きによる場合
留学先大学での「単位」取得	可	可	可
留学先大学での「学位」取得	不可	不可	場合により可
留学先大学での授業料	払わない	払う	払う
東京大学での授業料	払う	払う	払わない(ただし、休学開始時期にもよるので注意が必要)
修業年限	算入される	算入される	算入されない
本学での単位認定	可(ただし、所属学部・研究科が承認した場合)	学部・研究科により異なる	学部・研究科により異なる

外国の大学において取得した単位の取扱いに関する規則(学部学生)

《東京大学学部通則》

第3章 留学

■留学

第14条の2

学部長は、教育上有益と認めるときは、学生が休学^{注釈1}することなく外国の大学において授業科目を履修し、単位を取得することを許可することができる。

2 前項の規定により外国の大学において修学する期間は、おおむね1年を限度とするものとする。

■単位の認定

第14条の3

学部長は、学生が留学の期間において修得した授業科目及び単位数については、前期課程においては10単位、後期課程においては30単位を超えない範囲で、本学における相当する授業科目及び単位数を修得したものとみなすことができる。

■申請手続

第14条の4

留学の許可及び単位の認定を受けようとする者は、所定の申請書^{注釈2}を学部長に提出しなければならない。

2 留学許可及び単位認定等の申請手続については、各学部の定めるところによる。

■休学期間中に外国の大学において取得した単位の取扱い

第14条の5

第14条の2の規定にかかわらず、学部長は、教育上有益と認めるときは、学生が休学期間中に外国の大学において授業科目を履修し取得した単位を、本学における相当する授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

2 前項により修得したものとみなすことができる単位数は、第14条の3の規定により本学において修得したものとみなす単位数と合わせて前期課程においては10単位、後期課程においては30単位を超えないものとする。

3 前2項の規定による単位認定等の申請手続については、前条の規定を準用する。

注釈

1 休学して海外修学する場合は、休学期間は在学期間には含まれないため、その分、卒業の時期が遅れることになる。なお、休学期間中に海外の大学等で単位を取得した場合の本学における単位の取扱いは、第14条の5の規定により各学部の定めによるので、教務担当窓口で確認すること。

2 「留学許可願」を担当窓口に提出する。

留学についての詳細は、留学時に在籍する学部の担当窓口 に事前に相談し確認してください。
--

※大学院学生については以下を参照してください。

●東京大学大学院学則 第28条(留学)

●東京大学大学院専門職学位課程規則 第23条(他の大学院における授業科目の履修等)

外国の大学において取得した単位の各学部・研究科の取扱い例

※本ページの情報は、2020年2月1日現在の情報です。※詳細については、各学部・研究科の規則や、教務担当窓口で確認してください。

学部

法学部	法学部において開設されている授業科目に相当する場合には、これを「相当科目」として認定する。相当科目に該当しない場合においては、審査の上、随意科目として認定する。
医学部	単位認定を希望する場合には、事前に学務チーム(学部担当)に相談すること。なお、医学科は単位制ではない。
工学部	当該学科の審査により、科目配当表の単位として認定することができる。また、それ以外の科目についても学科で必要と認めた場合には、卒業単位に算入することができる。
文学部	外国の大学で取得した単位の認定は、「留学」した場合及び休学して外国の大学に「修学」した場合に限る。学部教務委員会において適切と判断された場合は、必修科目または必修科目以外の科目に認定され、卒業単位に含めることができる。
理学部	単位認定を希望する者は、事前に教務チームに相談すること。
農学部	留学先大学の成績証明書、時間割およびシラバス等を指導教員又は学部委員に提出し単位認定を申請した場合、所属専修および教育会議の議を経て認定する。
経済学部	単位の認定・振替は、学生交流協定に基づき「留学」の身分により派遣された場合に限る。学部教務委員会・学部教授会で適切と判断された場合、本学部の基準 で単位数を換算の上、単位の振替・認定が認められる。学則・内規に沿って運用をしているので、単位の認定・振替を希望する者は、留学生・国際交流担当チームへ事前に相談に来ること。
教養学部(前期課程)	外国の大学で取得した単位の扱いについては必ず事前に教務課前期課程チーム(PEAK生は国際化推進チーム)で説明を受けること。
教養学部(後期課程)	本学と学生交流覚書を締結している大学に留学等をして取得した単位については、所定の期間内に単位認定を申請し、学部教務委員会・後期運営委員会において適切と判断された場合、定められた上限単位数まで卒業単位として認定を受けることができる。詳細については「教養学部便覧」を参照のこと。
教育学部	原則として、全学学生交流に基づく交換留学協定校等、本学からの推薦に基づく派遣先大学に限る。選択科目の単位として一括して認定することができる。単位の認定は学務委員会の議を経た後、教授会で承認する。
薬学部	単位認定を希望する者は、事前に教務チームに相談すること。

大学院

法学政治学研究科	〈総合法政専攻〉においては、学生が留学先大学で単位を取得した科目の認定には、学生からの単位認定申請にもとづき、学務委員会で判断する。なお、休学中に外国の大学院において取得した単位についても、認定することは可能である。
医学系研究科	外国の大学院等で修得した単位の認定は、休学(休学理由が「海外の教育・研究施設において修学」の場合に限り)および留学の場合に、修士課程及び博士課程を通じて10単位を超えない範囲で、研究科として認定の可否を行うので、学務チーム(大学院担当)へ相談すること。
工学系研究科	外国の大学院に「留学」して、当該大学院において専攻分野に関する授業科目を履修し、修得した単位は、申請により、本研究科における相当する科目・単位として、修士及び博士後期課程を通じて10単位まで認定される。留学先大学で修得した単位は、当該大学院の履修時間及び採点基準を考慮して、本学の基準で単位数及び成績の換算をする(そのまま本研究科と同じ単位数として換算されとは限らない)。※休学して外国の大学院に「修学」した時の、当該大学院で修得した単位は、本研究科の単位には認定されない。
人文社会系研究科	留学又は休学期間中に外国の大学の大学院において修得した科目及び単位は、修士課程及び博士後期課程を通じて10単位を限度として、自由選択科目の単位に算入することができる。なお、休学の理由は「海外修学」に限る。
理学系研究科	外国の大学の大学院において専攻分野に関する授業科目を履修し単位を取得した場合、修士課程及び博士後期課程を通じて、10単位を超えない範囲で本研究科において単位を認定することができる。希望者は、渡航前に専攻事務室で手続きに関する指示を受けること。
農学生命科学研究科	所属専攻および教育会議の議を経て認定する。手続きは留学前に行うこと。認定範囲、提出書類等は教務課へ相談すること。
経済学研究科	単位の認定・振替は、学生交流協定に基づき「留学」の身分により派遣された場合に限る。教育会議にて適切と判断された場合、本研究科の基準で単位数を換算の上、単位の振替・認定が認められる。学則・内規に沿って運用しているので、単位の認定・振替を希望する者は、留学生・国際交流担当チームへ事前相談に来ること。
総合文化研究科	留学又は休学期間中に外国の大学の大学院において取得した単位は、10単位を超えない範囲で本研究科の授業科目及び単位として認定することができる。単位の認定を希望する場合は、留学又は休学期間終了後に総合文化大学院チーム(GPEAK生は国際化推進チーム)で必要な手続きをとること。授業科目及び単位の認定は、認定希望者からの申請を専攻等で審査のうえ、研究科教育会議で決定する。なお、本研究科の授業科目及び単位の認定の申請ができる休学の理由は、原則として海外修学のみとする。
教育学研究科	留学期間中に外国の大学の大学院において取得した科目及び単位は、研究科教育会議の議を経て、本研究科における選択科目に相当する科目及び単位として認定することができる。ただし、認定できる単位数は、修士・博士課程を通じて10単位を超えないものとする。単位の認定を希望する場合は、学生支援チームにあらかじめ相談すること。
薬学系研究科	単位認定を希望する者は、事前に教務チームに相談すること。
数理学研究科	単位認定を希望する者は、事前に教務チームに相談すること。
新領域創成科学研究科	外国の大学院等で修得した単位の認定は、休学(休学理由が「海外の教育・研究施設において修学」の場合に限り)および留学の場合に、修士課程及び博士後期課程を通じて10単位を超えない範囲で、研究科として認定の可否を行うので、新領域創成科学研究科教務チームへ相談すること。
情報理工学系研究科	当該専攻の審査により、修士及び博士後期課程を通じて10単位を限度として修了単位に認定することができる。留学先大学で修得した単位は、当該大学院の履修時間及び採点基準を考慮して、本学の基準で単位数及び成績の換算をする(そのまま本研究科と同じ単位数として換算されとは限らないので注意すること)。
学際情報学府	留学又は休学期間中に外国の大学の大学院において修得した科目及び単位は、本学府の承認を得ることにより、修士課程及び博士課程を通じて、10単位を超えない範囲で、他研究科科目の単位として、認定することができる。単位認定を希望する者は、事前に学務チームに相談すること。
公共政策学教育部	公共政策学教育部において、教育上必要とみとめる時は、他の大学院において履修した授業科目について修得した単位を、専門職学位課程の修了要件として定める単位数の2分の1を超えない範囲内で認定することができる。博士後期課程において単位認定を希望する者は、事前に大学院係に相談すること。

4. 語学能力検定試験

留学する場合、留学先大学や東京大学が求める語学能力の基準を満たす必要があります。語学能力試験は、受験予約が取りにくいことがあります。また、募集開始から書類提出締切までの期間が非常に短いプログラムもあります。締切日までにスコアを取得できない学生が例年見受けられますので、短期・長期に関わらず留学を考えている場合は早めに受験し、有効期限を満たすスコアを常に所持しておくようにしましょう。

英語圏への留学

一般的に英語圏の大学への留学にはTOEFL iBTやIELTS(Academic Module)のスコアの提出が必要です。TOEICや英検(実用英語技能検定)は日本の就職活動などでは広く用いられますが、海外大学への留学の際には語学能力証明として認められないケースも多いため、注意してください。また、TOEFL PBTやTOEFL ITPも公式スコアとして認められないケースがあります。

	TOEFL iBT	IELTS(Academic Module)
概要	米国を始め世界各国の大学等で英語力の証明として利用されており、150を超える国や地域の10,000以上の大学、機関、その他の団体が TOEFL テストスコアを受け付けている。	英国、オーストラリア、カナダ、ニュージーランドのほとんどの教育機関で受け入れられており、米国でも広がっている。英語で授業を行う大学や大学院に入学できるレベルに達しているかどうかを評価するもので、一般的に、大学や大学院において英語で学びたい場合はAcademic Moduleの結果が必要となる。
スコア	0~120(1ポイント刻み)	1.0~9.0(0.5ポイント刻み)
試験日	ほぼ毎週末、年間50回以上	東京では毎月3回程度実施
受験料	US \$235(通常申込時)	25,380円
スコア有効期限	2年間	2年間

関連ウェブサイト: TOEFL <https://www.ets.org/jp/toefl> IELTS <https://www.eiken.or.jp/ielts/>

※2020年2月1日現在の情報を掲載しています。

学内で開講している「スペシャル・イングリッシュ・レッスン(SEL)」(p29参照)では、日常会話、プレゼンテーション、TOEFL対策講座などの有料のプログラムを提供しています。留学応募前または留学が決まった後の英語力向上に活用してください。

英語圏外への留学

留学先の大学によって、必要な語学能力の基準が設定されている場合があります。下表に示す語学能力試験は一例ですが、一般的に日本語話者向けの検定(例:実用フランス語技能検定試験等)は海外大学への留学の際に語学能力として認められないケースも多いため、注意してください。また、語学能力試験によって有効期間が異なるので、必ず試験実施団体のウェブサイトなどを確認しましょう。

(英語以外の語学能力試験例)

言語	語学能力試験
韓国語	TOPIK/KLAT
スペイン語	DELE
中国語	HSK
ドイツ語	TestDaF/Goethe-Zertifikat/Telc
フランス語	DELFLDALF/TCF/TEF

5. 安全と危機管理

海外では、慣れない場所で、どこにどのような危険があるのかが十分に把握できないこともあるため、交通事故・窃盗・強盗・詐欺など、様々な被害に遭う可能性が高くなります。危険を感じる状況などをできるだけ避け、常に危険などを予測してから行動するよう心がけてください。

学生が海外渡航する機会が増えていること、また、今後のさらなる増加が予想されることを受け、東京大学の学生及び教職員のための『海外渡航危機管理ガイドブック』を作成しています。海外に渡航する学生は必ず『海外渡航危機管理ガイドブック』を熟読し、海外でのリスクについて事前に知り、十分に準備するようにしてください。『海外渡航危機管理ガイドブック』

<https://www.u-tokyo.ac.jp/adm/go-global/ja/voyage-safety.html>

保険への加入

海外渡航中の保険については、必ず出発前に、出発から帰国までの期間をカバーする海外旅行保険・留学保険等に加入してください。プログラムによっては、公益財団法人日本国際教育支援協会(JEES)の学研災付帯海外留学保険「付帯海学」に加入することが参加の条件となります(グローバルキャンパス推進本部担当のプログラムについてはこれに該当します)。また、留学先大学などから指定する保険に加入することを求められた場合は、併せて保険に加入してください。※日本の海外旅行保険・留学保険などは出国後には加入できないため注意してください。

海外安全危機管理サービス「OSSMA, Overseas Student Safety Management Assistance(オスマ)」

OSSMAは、海外滞在中に困ったことが発生した際に24時間365日、日本語・英語により適切なサポートを提供するサービスです。サービスの内容は、病気や怪我の電話相談、安否確認、ご家族渡航サポートなどとなり、東京大学では、海外に渡航する学生向けに試行導入しています。詳しくは、以下のホームページをご覧ください。<https://www.u-tokyo.ac.jp/ja/intl-activities/study-abroad/ossma.html>

所属学部・研究科での届け出

留学などにより海外渡航する際には、渡航目的により「留学許可願」、「海外渡航届」、「休学願」などの提出が必要になります。所属学部・研究科の担当部署に確認し、必要な手続きを行ってください。

健康管理と安全管理に関する事前準備

『海外渡航危機管理ガイドブック』を参考に、海外において安全、快適に研究・学習などを行っていくうえで欠かせない「健康管理」と「安全管理」の両面から、渡航前の危機回避対策を必ず行ってください(健康診断、歯科検診、常備薬の準備、予防(ワクチン)接種、渡航先に関する情報の事前収集、緊急対応リストの携行など)。なお、東京大学の保健センターでは、渡航前医療相談を実施して

いますので活用してください。

トラベルクリニック

<http://www.hc.u-tokyo.ac.jp/guide/internal-medicine/travel-clinic/>

「在留届」の提出・「たびレジ」の登録

日本国籍の方が海外に3ヶ月以上滞在する場合は、必ず最寄りの日本大使館・領事館に「在留届」を提出してください(旅券法第16条により義務付けられています。インターネットによる提出も可能です)。万一、海外で事件・事故や思わぬ災害に巻き込まれた場合、日本国大使館や総領事館は、この「在留届」をもとに日本人の所在地や緊急連絡先を確認して援護します。

※転居・帰国の際にも必ず届け出てください。

また、外務省は、3ヶ月以内の滞在を対象に、2014年7月以降「たびレジ」システムを導入しました。同省の専用サイトに必要事項(旅行日程・滞在先・連絡先)を登録することにより、滞在先の最新情報や緊急事態発生時の連絡メール、あるいは、いざという時の緊急連絡などの受け取りが可能で、東京大学は、この登録を強く推奨します。

外務省ホームページ

<http://www.mofa.go.jp/mofaj/toko/todoke/index.html>

海外渡航中の報告・連絡・相談

海外渡航中、何か問題が生じた場合や相談事があるような場合、また緊急事態等が発生した場合は、速やかにプログラムの担当者や東京大学の担当者に報告・連絡・相談してください。また万一生命、身体が危険にさらされるような事態が生じた場合は、渡航先の在外公館に援護を求めてください。現地で天災、新型インフルエンザなどの感染症、テロなどが発生した場合は、たとえ自分には何も被害がなくても、安否について速やかに東京大学の担当者に連絡してください。なお、家族にも定期的に連絡を取るようしてください。

その他

海外でも東京大学の学生であることを常に自覚し、行動や振る舞いには十分気をつけましょう。

その他、プログラムの担当者、所属学部・研究科、指導教員などの指示に従い、安全と危機管理に十分注意してください。



6. 留学と就職活動

留学を考える際に、就職活動のことが気になる学生も多いでしょう。留学も就職活動も悔いなく両立するためには、留学が就職活動に与えると思われるメリットやデメリット、就職活動をする年度の採用スケジュールや留学先で参加できる就職イベントなど、事前の幅広い情報収集が重要です。

留学前に大学の窓口を利用しましょう

就職活動のスケジュール(企業の採用情報公開の時期、面接などの選考開始時期)についてキャリアサポート室などを利用し、常に最新の情報を得られるように準備しておきましょう。

留学前に情報収集しておくこと

- 就職活動のスケジュール
- 帰国後の履修・卒業計画
- 外資系・ベンチャー企業など独自の採用活動を行う企業情報

情報収集の機会

- 留学先の大学や都市のキャリアフォーラム
- 各種キャリアガイダンス(キャリアサポート室主催、留学経験者対象)
- 海外留学経験者向け就職情報サイト

大学の留学フェアを利用して留学経験者や留学担当者などから話をたくさん聞き、より多くの情報を収集しましょう。留学先や留学から帰国する時期・卒業の予定などそれぞれの事情にあわせて、自身の就職活動を考えてみましょう。本郷のキャリアサポート室では就職活動のスケジュールをはじめ、留学が進学が迷ったときや、企業分析や自己理解などの相談に専門のキャリアアドバイザーが個別にお応えします(ただし、英語のエントリーシートの添削は行っていません)。OBOG訪問用名簿や先輩の進路情報もありますので、利用してください。

キャリア相談は予約優先ですので、キャリアサポート室のウェブサイトからお申し込みください。

ウェブサイトへアクセス



<https://www.careersupport.adm.u-tokyo.ac.jp/>

学生体験記

氏名：小川 満輝さん
所属・学年(留学開始時)：農学部3年
留学先大学：ウォーリック大学
留学期間：2019年1~6月(6ヶ月間)
内定先の業界：総合系コンサルティング



濃密で刺激的な経験、 海外就活のメリット

留学中の就活は、企業が独自に開く選考会とキャリアフォーラム(CF)の2つを中心に進めることとなります。情報収集は主にFacebookやCFのホームページ、就活エージェントが現地大学で開くセミナーなどで行いました。Webテスト対策本などは日本から持参しておくといくです。国内就活と異なる点は、日英両方のCVおよび面接対策が要されることです。私は現地学生に不自然な英語表現が無いか確認してもらっていました。慣れない大学生活やその他活動と並行しての就活対策は苦勞もありますが、海外就活ならではのメリットも多く存在します。特に感じたのが、就活生同士の交流の濃密さでした。同時に留学し、かつ就活を進める学生同士、バックグラウンドに共通項も多く互いに大きな刺激になりますし、帰国後も持続するような密な人間関係が構築できます。また、企業の採用担当者との距離感も近いと感じました。応募者が国内より少ない分、深い話や質問ができる場面が多いです。当然、短期間で選考が進み内定まで辿り着けることも大きな利点です。インターンの選考枠もあるので、帰国後に就活を続ける人にとって面接慣れの場としてとても有用だと思います。

学生体験記

氏名：小泉 秋理さん
所属・学年(留学開始時)：文学部4年
留学先大学：ストラスブール大学
留学期間：2018年8月~2019年6月
(11ヶ月間)
就職先の業界：医療系メーカー



就活は社会のためじゃなく 自分のためにする

私は学部3年時のインターンで単純作業を任せられた時、日本での就職ではやりたいことを仕事にするのは難しいのではないかと、そこで仕事が自分の人生の軸になるのか不安になりました。そして留学すればその後の人生の自分の軸になって支えてくれるような経験ができるのではないかと、と思い留学しました。フランスの人は自分のために生きて自分の尺度で社会に振り回されず勝手に進路選択していて、私は日本で世間体を気にして就活していた自分に気づかされました。そこでもっと自分のために生きようと肩の力が抜けました。またヨーロッパで働く人に触れるうちに日本の雇用形態や労働条件の特殊性に気づかされ、仕事以外の時間を持てる職種に就きたいと思いそれがキャリア選択に影響しました。私は留学時に4年で就活では不利な状況でしたが、近年は留学経験者への配慮・優遇をする企業も出てきていますし、帰国後の夏採用も拡大しつつあるので日本の新卒一括採用というシステムを理由に留学を諦めることはないと思います。留学という海外で勉強だけに集中できる贅沢な経験は学生のうちでないとなかなかできないと思うので、迷っているなら行くべきだと思います。

7. 卒業後の大学院留学

ここまで、交換留学や短期の留学といった、東京大学在学中の留学について紹介してきました。東京大学では現在、主に在学中の留学をサポートしていますが、卒業後の海外の大学院への留学についても情報提供などを行っています。

海外大学院のシステム

海外の大学院は、留学期間は異なりますが、大きく分けて Graduate Schoolと、Professional Schoolの2つの種類があります。Graduate Schoolでは、東京大学在学中に学んだ学術研究をより専門的に深めることができます。一方、Medical、LawやBusinessに代表される Professional Schoolでは、職業に直結した教育を受けることができます。世界各国で教育システムが異なるように、海外の大学院のシステムは日本と異なることが多いので十分な情報収集が必要です。

大学院レベルで提供される学位は、修士号(Master's Degree)と博士号(Doctoral Degree or Ph.D.)があります。

修士課程は、通常1~2年間の課程です。講義の履修だけで修了できるプログラム、修士論文を課すプログラムなど、その形態は大学や学科によって様々です。

博士課程は決まった年限を設けていないことが多いですが、概ね3~5年程度の研究期間を必要とします。修士号を必要とするプログラム、修士課程を経ずに直接出願可能なプログラムがあり、前者は修士課程で取得した単位を用いることができる場合もあります。後者は修士課程・博士課程が一体となっているもの、修士号の取得をス

キップするものなど、状況や希望に合わせて進路を選べるプログラムも存在します。

大学院留学の情報収集

留学先の国や大学によって制度が異なる場合が多く、学士課程時の専攻と異なる分野での留学も可能なため、事前の情報収集が重要です。東京大学では、以下の方法で情報を入手することができます。

● Go Global ウェブサイト

「留学プログラム」のページで、東京大学宛に案内のあった大学院留学プログラムを随時紹介しています。また本ガイドブックの「留学にかかる費用と奨学金」(p38-39参照)で大学院留学に関する奨学金情報も提供しています。

● 説明会等の大学院留学関係イベント

Go Global ウェブサイトやSNS(p36参照)で、海外大学や各国大使館などが主催する説明会など、大学院留学関係のイベントを紹介しています。東京大学と関係の深い大学については東京大学で説明会が行われる場合もあります。

UT-OSAC (Overseas Study Advisory Community, the University of Tokyo)

東京大学の卒業生を中心とした団体であるUT-OSACでは、米国大学院学生会と協力し、海外大学院留学に関する情報提供や説明会などの開催、およびそのサポートを行っています。詳細は米国大学院学生会のウェブサイトをご覧ください。 <http://gakuiryugaku.net>

ウェブサイトへアクセス



海外大学院留学説明会主催者から

南出将志

(2013年工学部社会基盤学科卒業 2014年工学系研究科社会基盤学専攻修士課程修了
2018年ペンシルバニア州立大学気象学部博士号取得 NASAジェット推進研究所ポスドク研究員)

私たちは海外大学院留学を就職、進学に次ぐ第三の選択肢と考えています。これは日本での「既定のコース」とは異なるためハードルが高く、あまり身近でない選択肢かもしれません。しかし、その先には刺激的で数々の体験と、大きく広がる世界観があなたを待っています。年二回(夏・冬)の説明会開催時には、世界トップクラスの大学院から多様な留学生や卒業生、教職員を講演者として招き、海外の大学院への出願方法や、利点、欠点、実際の生活の様子などを紹介しています。留学を通じて世界で勝負してみたい皆さん、ぜひ説明会に足を運んでみてください。



大学院留学のスケジュールと必要なもの

海外の大学院への出願プロセスは、国内大学のものとは全く異なります。特に、アメリカやヨーロッパを中心として「GPA」「英語のスコア」「推薦状」「エッセイ」などを求められることが多いので、ここではそれらについて紹介します。具体的な点数や、そのほかに提出求められるものなどは、出願先によって大きく異なりますので、詳しくは出願先の大学院のウェブサイトなどを直接確認しましょう。

- GPA: Grade Point Averageの略、授業成績の平均点を指します。後から取り戻せないものなので、早い段階から意識しておきましょう。
- 英語のスコア: TOEFLやIELTSが該当します。特にアメリカの大学院出願に必要なTOEFL iBTは、大学の講義や議論といった状況が想定されており、出願時だけでなく、進学後の英語対策にも効果的です。また、英語以外の共通試験として、アメリカのほとんどの大学院ではGREの受験が求められます。
- 推薦状: 計三通の提出を求められることが多いです。受験者の経験や能力、才能、人柄に関する記述が、具体的に書かれていることが大事なポイントとなります。自身の強みを多様な観点から評価頂けるように、先生方との関係を築いてください。
- エッセイ: 志望動機や、自身の研究での強みなどをまとめた文章です。具体的に書けるように、専門分野の勉強を積み重ねましょう。
- その他: 研究業績(インパクトファクターの高い雑誌の筆頭著者論文など)や、外部奨学金などを持っていると高く評価されます。また、事前に受験先(指導教官の候補等)に連絡を取り、出願の意思表示をともに、自身の能力やどのような内容の研究が可能であるか等について、積極的な情報交換を行うことも非常に効果的です。最終的な可否の判断は、これらの総合評価となります。出願年は出願書類や奨学金の応募書類、業績を上げるための卒業(修士)研究に集中できるように、それまでにGPAや英語のスコアなどの準備を整えておきましょう。

8. よくある質問

【留学準備】

Q. 留学を希望する場合、いつ頃から準備を始めればよいですか？

- A. (全学交換留学等長期留学の場合) 留学のおよそ1年前に募集が行われるので、その時期に応募できるよう、早めに情報収集や語学能力試験の受験を進めておきましょう。
(サマープログラム等短期留学の場合) グローバルキャンパス推進本部が担当するサマープログラムの場合、プログラムによって異なりますが、その年の1~2月及び4~5月に募集が行われるプログラムが最も多いので、その時期に応募ができるよう、早めに情報収集や語学能力試験の受験を進めておきましょう。個人で応募するサマープログラムも、早いものでは2~3月に募集が締め切られるものもありますが、中には6月頃まで申し込み可能なものもあります。

【学籍・単位】

Q. 1学期~1年の間留学しても4年間で学部を卒業できますか？

- A. 交換留学の場合、期間や時期、単位取得や単位認定の状況によっては、4年で卒業が可能な場合もありますが、1年間の留学だと留年が必要となるケースも多くあります。所属学部に確認の上、計画的に授業履修や留学の準備を行ってください。ただし、単位の取り扱いは学部ごとに異なりますので、必ず交換留学の計画段階で所属学部に確認してください(p42-43参照)。

Q. 現在休学しているのですが、全学交換留学や東京大学のプログラムに応募できますか？

- A. 留学時に休学から復帰していれば応募可能なプログラムもありますが、必ず各学部・研究科の担当部署に確認をして申請してください。

【応募条件・選考】

Q. 前期課程の学生も全学交換留学に参加できますか？

- A. できます。ただし、前期課程の科目の履修計画に関する留意点や、外国の大学で取得した単位の扱いについては必ず教務課前期課程チーム(PEAK生は国際化推進チーム)で事前に説明を受けるようにしてください。

Q. 英語に自信がなくても参加できる留学プログラムはありますか？

- A. 語学力向上目的のプログラムもありますので、Go Global ウェブサイトなどでよく調べてみてください。一口に留学といっても、プログラムごとに目的や内容・レベルは様々ですので、自分のイメージだけで判断せず、事前にプログラムをよく調べて自分に適したプログラムに参加するようにしましょう。

Q. 全学交換留学の学内選考はどのように行われますか？

- A. 全学交換留学の派遣候補者は、各学部・研究科を通じた申請を経て、学業成績・語学能力・申請書の記述内容や面接等によりグローバルキャンパス推進本部で総合的に選考審査され、決定されます(2020年4月1日現在)。

Q. Go Global ウェブサイトには締切日や提出先が記載されていない場合がありますが、どこで確認できますか？

- A. 東京大学では多くのプログラムで、自分の所属している学部・研究科に応募書類を提出することになります。締切日や提出先は各学部・研究科で異なりますので、Go Global ウェブサイト上には記載されていないことがあります。各学部・研究科のウェブサイトや掲示板、窓口等で必ず確認するようにしてください。

【費用】

Q. 留学に行く場合、費用はどのくらいかかりますか？

- A. (交換留学の場合) 行く地域にもよりますが、日本で生活する場合とあまり変わらない程度の費用で留学することができます。渡航費や生活費などは必要ですが、東京大学に授業料を納めていれば、留学先での授業料は不要となるためです。交換留学の場合、協定校の寮が利用できる場合が多く、奨学金制度も充実しているので、費用を抑えて留学することも可能です(p38-39参照)。
(サマープログラム等短期留学の場合) 費用はプログラムによって大きく異なります。ほぼ無料で参加できるものから、数十万円のプログラムまで様々ですので、よく調べ、予算に応じて参加プログラムを検討してください(p14-16参照)。

【その他】

Q. 各プログラムの応募の倍率はどのくらいですか？

- A. 応募の倍率はプログラムによって大きく異なり、情報公開していない場合も多くあります。全学交換留学やUC派遣プログラムの場合は、Go Global ウェブサイトの各プログラムのページで応募状況や派遣実績を公開しています。人気が集まり倍率が高くなる留学先やプログラムもあるので、併願ができる場合は複数のプログラムに併願することをおすすめします。

Q. 現在申し込もうと考えているプログラムの詳細や、過去の参加者の経験はどこで知ることができますか？

- A. まずは東京大学が公開している募集要項、留学先大学が作成しているプログラムのウェブサイトやパンフレットをよく読んでみてください。また、グローバルキャンパス推進本部が担当するプログラムでは、Go Global ウェブサイト上に過去の参加者による詳細な報告書・留学体験記を掲載しているので、確認しましょう。また、派遣前のオリエンテーションなどで過去の参加者と情報交換できる場合もあります。

留学体験記にアクセス



<https://www.u-tokyo.ac.jp/adm/go-global/ja/report-list.html>

Q. 短期留学プログラムなどに参加したいのですが、東京大学の授業や試験期間と時期が重なっている場合はどうなりますか？

- A. 海外の大学は6~7月が夏休みのところが多いため、その時期に開催されるプログラムも多くあります。自分の授業・試験日程などを応募前に十分確認し、参加が可能なプログラムに応募してください。留学のために東京大学の授業や試験に出席できない場合の扱いは、留学時に所属する学部・研究科の判断によります。留学プログラムなどへの参加に際して、特別な配慮が行われるとは限りませんので、学部・研究科の窓口で事前に十分確認し、納得した上で参加申請を行ってください。

Q. 留学について相談したいのですが、どこで相談に乗ってもらえますか？

- A. 現在募集中のプログラムに関する具体的なことについては、所属している学部・研究科の担当部署や、募集要項に記載されている問い合わせ先に確認するようにしましょう。
その他、留学に関する全般的な質問・一般的な質問は本郷キャンパスのGo Globalセンター内 留学生・留学情報サポートデスクで受け付けています(p37参照)。
また、特定の学問分野の留学事情などについては、所属している学部・研究科の担当部署や指導教員、先輩などに相談してみるのがよいでしょう。

Go Global ウェブサイトでは、よくある質問を随時更新しています



<https://www.u-tokyo.ac.jp/adm/go-global/ja/contact-faq-index.html>



[編集・発行] 2020年4月1日／東京大学グローバルキャンパス推進本部
[E-mail] studyabroadfair.adm@gs.mail.u-tokyo.ac.jp [Web] <https://www.u-tokyo.ac.jp/adm/go-global/ja/>